

PEしこく

IPEJ Shikoku Journal 2025
vol.29

目 次

寄稿論文

○第 50 回技術士全国大会（札幌・北海道）併設機械部会に参加して	香川県 機械／総監部門	小比賀 正昭 …	1
○高専デザコンにおける建築・土木分野の一体的な教育実践	愛媛県 建設部門	多田 豊 …	5
○2024 年度 高知大学地理空間情報学研究室活動報告	高知県 情報工学／総監部門	橋本 直之 …	9
○平成 30 年西日本豪雨災害を振り返って	愛媛県 建設／応用理学／総監部門	吉村 和司 …	11

社会貢献活動報告

○令和 7 年度高知県地域防災フェスティバル出展参加報告	防災委員会委員	山脇 雄一 …	15
------------------------------	---------	---------	----

年次大会報告

○令和 7 年度（第 16 回）年次大会報告	広報委員会委員長	岩佐 隆 …	17
------------------------	----------	--------	----

各委員会報告

○総務委員会報告	総務委員会委員長	豊崎 裕司 …	19
○事業委員会報告	事業委員会委員長	谷脇 準藏 …	21
○広報委員会報告	広報委員会委員長	岩佐 隆 …	23
○修習技術者支援委員会報告	修習技術者支援委員会副委員長	藤本 耕次 …	25
○防災委員会報告	防災委員会委員長	木村 一成 …	27
○試験業務支援委員会報告	試験業務支援委員会委員長	三木 公司 …	31
○青年技術士交流委員会報告	青年技術士交流委員会委員	白鳥 実 …	33
○倫理小委員会報告	倫理小委員会委員	藤本 憲洋 …	37

県支部活動報告

○高知県支部活動報告	高知県支部事務局長	松本 洋一 …	39
------------	-----------	---------	----

各県技術士会だより

○徳島県技術士会だより	徳島県技術士会事務局長	神田 幸正 …	41
-------------	-------------	---------	----

○香川県技術士会だより	香川県技術士会事務局長	尾崎 重浩 …	43
○愛媛県技術士会だより	愛媛県技術士会事務局長	小椋 匡 …	45

リレーエッセイ

○～プレーヤーとマネージャー～	末次 綾 …	47
-----------------	--------	----

協賛団体

○協賛団体	…	49
☆編集後記・各県広報原稿担当委員	…	50
☆四国支部会報投稿規程（裏表紙背面）		

PEしこく Vol. 29

令和7年7月31日発行

第 50 回技術士全国大会(札幌・北海道)併設機械部会に参加して

香川県 機械／総合技術監理部門

小比賀 正昭

OBIKA Masaaki

小比賀技術士事務所



1. はじめに

2024(令和6年)併設機械部会が全国大会開催前日の10月4日(金)に、国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所(札幌市豊平区){以下寒地土研}で開催された。2022 奈良・近畿、2023 名古屋・中部に続いての参加である。2024 全国大会の内容は、PE しこく前号(vol.28)掲載の岩佐隆氏掲載文を参照ください。

併設機械部会は全国大会の前日に開催されており、2019 全国大会(徳島・四国)の併設機械部会を主催した時から参加している。(ただし、コロナ禍の2020年は未開催、2021年全国大会<創立70周年記念>は不参加) なお、四国本部では部会制が執られていないので、便宜的に部門会として参加している。

2. 四国本部機械部門の現状

四国本部の機械部門正会員数は14名(2024.03.31現在)である。県別の内訳は、香川県11名、愛媛県2名、徳島県1名である。

地区別(本部)	機械部門正会員数
関東全域	941
北海道	28
東北	26
北陸	43
中部	224
近畿	319
中国	91
四国	14
九州	93
合計	1779

図-1 機械部門正会員数表

他の地域に比べて、非常に少ないのが現状である。その理由として言えることは、機械技術士を醸成できる企業基盤が少ないことにある。この件は2019 全国大会(徳島・四国)併設機械部会の筆者のプレゼンテーマ「技術士会からみた四国の現状と課題」で指摘している。

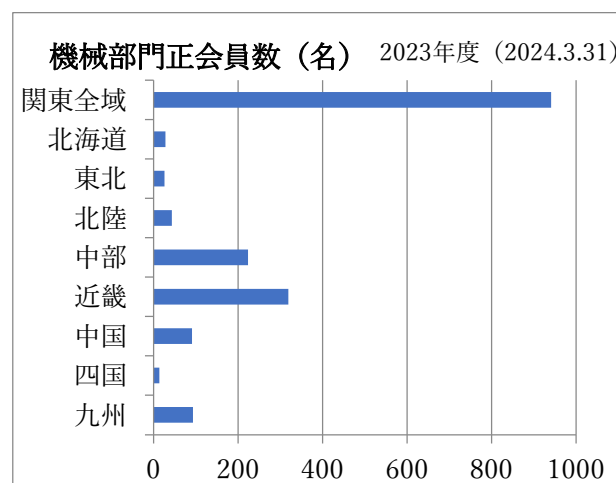


図-2 機械部門正会員数グラフ

3. 全国大会(札幌・北海道)併設機械部会

併設機械部会の会場である寒地土研は、札幌駅から地下鉄南北線の「中の島駅」近郊にある。

寒地土研は、寒地土木技術に関する研究開発、技術指導、成果の普及等を行うことにより、土木技術の向上を図り、良質な社会資本の効率的な整備及び北海道開発の推進に資することを目的に設立された、我が国唯一の寒地土木技術の試験研究機関である。平成27年4月、法律の改正により独立行政法人から国立研究開発法人と改め、当該法人の第一目的である研究開発成果の最大化を目指す研究所になった。

併設機械部会のキャッチコピーは、「北海道・札幌しかできない体験を通じて技術士間のつながり

ていないのでイザという時に確実に稼働しなければならない。そのため、状態監視システムやAIによる異常検知システムの早期確立によって、昨今異常に発生する豪雨災害を防止する必要性を痛感した。また、個人的な観点からみると、設置したプラント（排水機場ポンプ設備）が非常時でも確実に稼働するシステム作りが必要である。そのために、昨今の豪雨災害の排水機場ポンプ設備の全国的データ（上手く作動したか、故障の原因は何か等）を探るべきであると思われる。



写真-2 併設機械部会全景



写真-3 討論テーマ②グループ討議

年1回の対面対談は、全国の職種多様な技術士（機械部門）との交流によって有意義な時（とき）を過ごすことができた。現役時代のライバル企業や同一企業仲間の技術士との対面は、複雑な心境であった。



写真-4 参加者集合写真

会場参加者はスタッフを含めて総勢 53 名であった。（Web 参加者数は未公表）

4. 「ふてほど」

「ふてほど」は、2024 流行語大賞の年間大賞に選ばれた流行語である。宮藤官九郎さん脚本「不適切にもほどがある！」（ドラマでは阿部サダヲ主演）を略した「ふてほど」が選ばれた。2024 併設機械部会で「ふてほど」が感じられたので紹介したい。

1) 会場参加のお茶の有料と弁当容器処分の有料に疑問？

受付で 1500 円支払ったが、領収書は弁当代 1250 円のみであり、会場で支給されるペットボトルのお茶代 150 円と弁当容器処分代 100 円が支払いに含まれるとのこと。後で知った。

2) プレゼン中の「怒声」に会場が一瞬冷めた！
討論テーマである②排水機場ポンプ設備の異常検知診断システムのプレゼンを寒地土研の研究者が行った。発表時間が少し超過した時、事務局の北海道本部員から寒地土研の研究者に対し『怒声』が浴びせられた。会場は一瞬静まり返ったのである。もっと他に知らせる方法があったと思われる。

3) 旅費（宿泊費、交通費）精算を認めない！

直近の 2023 名古屋・中部、2022 奈良・近畿では旅費精算が認められ、開催前の事前メールでも広報があったが、今回の 2024 札幌・北海道では旅費精算が認められなかった。後日、納得のいく説明を求めたが、未だに未回答の状態である。

5. おわりに

6/2（月）田植えの手伝いをしていて、コンクリートの畦道から約1メートル下に落下し、コンクリート面で全身打撲し救急搬送となったため、本文投稿を辞退（キャンセル）しようか迷ったが、幸いにもMRI画像とレントゲン写真に異常がなかったため、自宅療養して痛みを耐えながらPCと向き合うこととした。（また、認知症予防のためでもある。）また、2012年左足アキレス腱断裂以来の救急搬送だったが、今回の事故でも無理はできない老体になってきていることを痛感した。常日頃運動をし、体を動かすことの気力は衰えていないが、肉体がついていかないという学習ができていなかったと反省している。特にアスリート魂を持ち続けている人には注意が必要である。家族からのお叱りがあったことは言うまでもない。

今回の併設機械部会に参加して、全国の機械技術士と親睦と交流ができて有意義なものであったが、「ふてほど」には残念な思いが残った。また、従来から提言している参加者リストの提供を望んでいるが、未だに実現されていない。当日50数名の参加者となると、名刺交換には限界がある。昨今、個人情報の関係絡みで参加者を公表しないことが多いが、名前と所属ぐらいは公表しても問題ないと思われるのではなかろうか。

最期になりますが、今回の併設機械部会に参加するにあたり、関係者の皆様に大変お世話になり、厚くお礼を申し上げます。感謝！！

2025.6.13 記、2025.07.08 訂正

文責 小比賀正昭

引用・参考

1) PE しこく vol.28

第50回技術士全国大会（札幌・北海道）に参加して 岩佐隆氏

2) 2023年度 事業報告書 収支決算書

2024年6月 公益社団法人 日本技術士会

3) 2023（令和5）年度 第14回年次大会資料

令和5年7月 公益社団法人 日本技術士会
四国本部

<付録>

会社の出張や個人旅行で度々訪れている北海道であるが、札幌の宿泊ホテルから近い地下鉄南北線の大通り駅近郊にある定番観光場所を訪れた。



写真-5 札幌・大通り公園



写真-6 札幌・時計台



写真-7 札幌・旧道庁(修復中)

高専デザコンにおける建築・土木分野の一体的な教育実践

愛媛県 建設部門

多田 豊

TADA Yutaka

愛媛大学大学院理工学研究科



非会員 藤原 健志（阿南工業高等専門学校）

非会員 矢野 寿洋（愛媛大学大学院）

1. はじめに

2025 年 4 月より阿南工業高等専門学校（徳島県阿南市）から、愛媛大学（愛媛県松山市）へ異動した。愛媛県は全都道府県の中で唯一、一級建築士の受験資格を得られる大学・高専が存在しない県であり（2008 年建築士法改正以前は愛媛大学工学部土木工学科などの指定学科を修了することで受験資格を得ることができた）、県内の行政機関、建設関係団体からの強い要望を受け、愛媛大学工学部では 2026 年度入学生から一級建築士受験資格を取得可能な「建築・社会デザインコース」*1 を設置することとなった。新コースは現在設置されている「社会デザインコース（土木工学+デザイン）」を基盤に、建築関連科目や分野横断的科目を加える形で再編される予定であり、土木分野と建築分野をつなぐ人材育成を目標とする。

こうした土木分野と建築分野の連携について、既に土木学会と日本建築学会は土木建築タスクフォース*2 を設立し、検討を進めている。この社会的な背景として複合施設や都市の再構築、災害復興や脱炭素等の研究領域において横断的な連携が不可欠であること、建築業界・土木業界ともに人材が不足する中で両分野に応用が容易な BIM/CIM や AI などを導入し人材流用を可能としていく必要があること等が示されている。その実現にあたり、教育段階から建築学・土木工学の両領域にわたる総合的な視野を持ち、協働できる人材を育成することが望まれている。先進的な事例としては東京大学大学院において建築学・都市工学・社会基盤工学を専攻する学生が事前復興をテーマに共同設計に取り組む授業（復興デザインス

タジオ*3）を行うなど、土木工学との融合授業の開発は現代において建築教育に求められる重要なテーマとなっている。

本論文では、高専在職中に担当した全国高等専門学校デザインコンペティション（以下、「デザコン」とする）2024 年度阿南大会における空間デザイン部門にて取り組んだ建築・土木分野の一体的な教育実践事例を紹介し、今後の教育について議論をする。

2. デザコン空間部門における教育実践事例

デザコンとは、全国の高等専門学校 57 校を対象とするロボコン（ロボットコンテスト）、プロコン（プログラミングコンテスト）に続く、第三の競技種目であり、建築、土木、機械工学を専攻する学生を主対象に 5 つの部門（①空間部門、②構造部門、③創造部門、④AM 部門（Additive Manufacturing: 3D プリンタなどの付加製造のこと）、⑤プレデザイン部門）での競技を行う。

空間部門は建築・土木分野の学生が参加できるコンペティションとすることが運営の前提となっているが、デザコン自体が建築学科をルーツに発展してきた経緯があり、過去の大会では建築を主とするテーマが選定されてきた。本大会では土木建築タスクフォースでの議論等を受け、高専教育において建築学と土木工学との連携の先導的な事例をつくりたいと考えた。防災や脱炭素等の融合領域のうち、国立高専 51 校の学習内容を定めた MCC（モデル・コア・カリキュラム*4）において、建築学、土木工学の両分野で学習内容が規定されている「防災」をテーマとすることとした。

表-1 デザコン阿南大会空間部門の概要

テーマ	タテ×ヨコ（防災）
審査 視点	自分の生き方を支える新しい空間デザインの 可能性を提案、多様な分野との連携
審査 員	羽藤英二先生（東京大学大学院教授） 三澤文子先生（エムズ建築設計事務所） 堀井秀和先生（徳島県弁護士会）
課題 期間	予選：2024 年 4 月～8 月 19 日 本選：2024 年 9 月 1 日～11 月 3 日
提出 物	予選：プレゼンポスター（A1）1 枚 本選：プレゼンポスター（A1）2 枚 プレゼンデータ（PPT） 模型、動画、AR、身体表現等自由
審査 方法	予選：書類審査 本選：タテ×ヨコブースへの展示 現地での 3 種類のワークショップ ①つなぐ、②つたえる、③たかめあう 公開審査
参加 数数	予選：112 チーム（19 高専 321 名） 本選：選出 11 チーム（7 高専 37 名）
備考	防災、事前復興を学ぶオンデマンド教材（16 講座）の受講を要請

表-1 に大会概要を示す。

課題テーマは「タテ×ヨコ」とし、縦割り行政や横つなぎ、垂直避難と水平避難、時間軸と空間軸など、全国の高専生が自分の地域の課題をテーマに結び付けることができる抽象性の高いテーマを設定した。課題趣旨の中では、当事者性という観点から「自分の生き方を支える新しい空間デザインの可能性を提案してほしい」と呼びかけるとともに、防災は工学だけでは成立しないため「芸術、文学、教育、文化財、医療、商業など多様な分野」とつながる提案を求めることとした。

審査員は、土木分野は事前復興等の研究者である羽藤英二先生（東京大学大学院教授）、建築分野は性能向上リフォーム・インスペクションの第一線で活躍される三澤文子先生（エムズ建築設計事務所）にお願いした。加えて、「防災」には工学以

外の視点も重要であるため災害ケースマネジメント等の実践に取り組まれている堀井秀和先生（徳島県弁護士会災害対策委員長）の 3 人で審査を頂くこととした。

課題は 2 段階とした。課題は 2024 年 4 月に公開し、学生が前期期間を通じて取り組めるようにした。また、全国の高専には、建築学科、土木工学科のいずれかしかない学校も多く、復興理論やワークショップ、地震や津波のメカニズムや耐震改修の理論、関連するソフトウェアの操作方法などを学ぶオンライン講座（16 講義）（表-2）を公開し、学習環境を整備した^{*5}。

表-2 オンライン講座の概要

<復興理論・ワークショップ> ・復興の未来：羽藤英二（東京大学） ・事後復興からの教訓：永山悟（元陸前高田市） ・復興まちづくりイメージトレーニング：塩崎由人（防災科学技術研究所） ・災害リスクとコミュニケーション：野本稔浩（香川大学危機管理先端教育研究センター）
<メカニズム・耐震改修理論> ・地震による家屋被害の特徴：中川貴文（京都大学生存圏研究所） ・地震による人的被害の特徴：西村明儒（徳島大学大学院医歯薬学研究部法医学分野） ・津波のメカニズムと被害：鈴木進吾（防災科学技術研究所） ・洪水被害の特徴と対策：野本稔浩（前掲） ・災害から暮らしを再建する～事前復興と災害ケースマネジメント～：堀井秀知（弁護士） ・木造建築病理学の必要性：住宅を診て治す～住宅医の調査診断から改修の概要：三澤文子（エムズ建築設計事務所）
<ソフトウェアの操作方法> ・耐震シミュレーションソフト wallstat の紹介：中川貴文（前掲） ・GIS によるハザードマップの作り方（1）～（4）：鈴木進吾（前掲）

予選の提出締切は8月19日とし、A1サイズのポスター1枚をPDFにて提出することを求めた。112チーム（19高専321名）から応募があり、9月1日に審査員の先生方による一次審査（オンライン）を行い、11チームを選出した。選出された11チームに対して審査員からのブラッシュアップ・コメントを示し、学生たちはそれを参考にしながら11月2日、3日の本選に向けて作品制作を進めた。本選では、プレゼンテーションポスター

（A1）2枚以内、スライドショーデータを必須の提出物とし、その他には模型の他、動画による説明やAR、VRや踊り等の身体表現も作品として認めた。展示は1800mm*1800mmのMDF（地場工場産）製のタテ×ヨコ・ブース（図-1）、パネルの位置などを自由に組み換えることができるようにし、この範囲内で「空間」作品を自由に構成することを求めた。

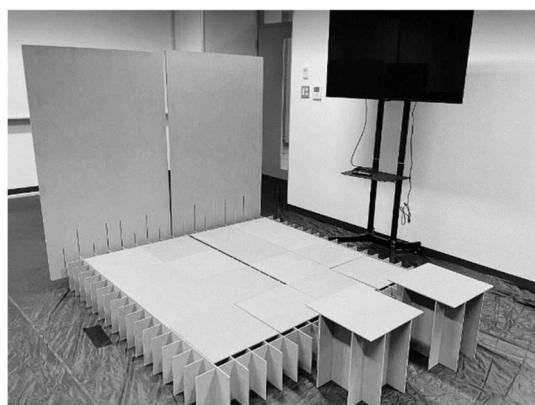


図-1 タテ×ヨコ・ブース

審査方法は、2日間にわたり3つのプレゼンテーションを行い、それらのプレゼンテーションを踏まえて、審査委員による公開審査を行うこととした。①「つなぐワークショップ」（図-2）では、各チームに地元の技術士や建築家、行政職員、防災士、阿南高専の主催する防災学習イベントに参加している小学生らがインターミディエータ（関係をつなぐ人の意味）として参加し、多様な視点から作品をブラッシュアップさせていった。②「つたえるプレゼンテーション」（図-3）では、チームごとにプレゼンテーションを行い、審査員からの質疑応答に答えていった。③「たかめあうクリテ

ィーク」（図-4）では、学生たちは3グループに分かれて批評合戦を行った。グループ内で20分間の批評合戦を3回繰り返し、審査員は各グループに1名ずつ参加し、順繰りに移動することとした。最後に、審査員による公開審査（図-5）を行い、それぞれの作品の持つ当事者性や多様性について、学生も発言しながら、喧々諤々の議論が交わり、賞を決定した。



図-2 ①「つなぐワークショップ」の様子



図-3 ②「つたえるプレゼンテーション」の様子



図-4 ③「たかめあうクリティーク」の様子



図-5 公開審査の様子

3. 結論

学生の作品のうち、土木と建築分野を融合させた特徴的なものを示す。

- ・流域治水を担う住宅地開発：霞堤のメカニズムを応用し、住宅地下に貯水空間を設けることで、都市型洪水対策と居住環境の両立を図る試み。
- ・消防団活動の視覚化：建築的空間と防災活動の接点を可視化し地域住民の意識変容を促す提案。
- ・土砂災害警戒区域の再編：危険区域にある既存住宅を撤去し、地形と調和する「資源的風景」を再生する提案。
- ・津波被災前提の集落デザイン：過疎の進む集落においてインフラ整備を行わず被災を前提にしつつも、文化継承を可能にするソフトな仕組みづくりの提案。
- ・地域産業との共生型インフラ：カキ養殖や鯉養殖、観光名所といった地域産業と結びついた建築、インフラの複合的な提案。

これらの作品は、災害対策、景観、地域産業など多様な要素を建築と土木の両方の視点から包括的に捉えようとしている。興味深い点として、いずれの提案も「建築」を半世紀以上のスパンで地域に根差す「社会的インフラ」として捉える傾向がみられた。これは土木分野で培われた「時間のスケール感」と計画性を建築に持ち込む試みであり、都市や環境の変化を超えて持続可能性を持つ建築物設計のあり方を示唆している。

4. 議論

学生作品に見られたように、現代の複雑な社会

課題に対応するためには、建築と土木分野とを連携させる視点が不可欠である。教育の場においても、専門領域の融合を前提とした設計教育や地域連携を推進することが、土木分野と建築分野をつなぐ人材育成につながるものと考えられる。具体例を次に示す。

(1) 地域課題を扱う設計課題等を分野横断型越境型 PBL (Project-Based Learning) として、建築・土木の学生が混成チームで取り組む仕組みを取り入れる。このことにより、各分野の専門性を持ち寄り、互いに学びあうとともに、より現実的かつ広い視座を持った提案が可能になることを実感することができる。

(2) 建築教育では意匠性や使い勝手に教育上の焦点が当たってきたが、気候変動・災害多発・人口減少時代において、社会基盤としての建築の視点を育むことが求められる。持続可能性や地域循環、災害復興などの視点を教育の中で意識させる働きかけが重要となる。

今後の課題として、他分野との横断にあたり多様な評価軸の設定や、学習プロセス自体を評価するといった視点が必要となる。

参考文献

- *1 愛媛大学：令和 8 年度愛媛大学工学部社会デザインコースの改革「建築・社会デザインコース」について、URL=<https://www.ehime-u.ac.jp/data_release/pr_20241205_kou/>
- *2 土木学会：土木建築タスクフォース、URL=<<https://committees.jsce.or.jp/dkTF/>>
- *3 東京大学復興デザイン研究体：復興デザインスタジオ～災害復興の提案と実践、東京大学出版会、2017
- *4 国立高等専門学校機構：モデルコアカリキュラム、URL=<https://www.kosen-k.go.jp/nationwide/main_super_kosen>
- *5 Yutaka Tada, et.al : Development and challenges of an online disaster prevention course using STEAM education for students at 51 KOSEN nationwide., 29th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, 2025.
- *6 一般社団法人全国高等専門学校連合会：デザコン 2024 阿南 official book, 建築資料研究社, 2025

2024 年度 高知大学地理空間情報学研究室活動報告

高知県 情報工学／総合技術監理部門
橋本 直之
HASHIMOTO Naoyuki
高知大学農林海洋科学部



1. 研究室概要

2023 年 4 月、高知大学農林海洋科学部はデータサイエンスやそれに基づく一次産業 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の教育を強化するために学部改組を行い、2 学科制（農林資源科学科と海洋資源科学科）にリニューアルした。農林資源科学科には「次世代農業教育プログラム」を設置し、一次産業の DX を推進できる人材を県内外に輩出することを目指している。農林海洋科学部は、南国市物部に位置する物部キャンパスにある。キャンパスの敷地の半分以上を果樹園、園芸施設、畜舎・放牧地、田・畑から成る附属農場が占め、これらを活用した実習・実験が活発に行われていることが教育の特徴である。農林資源科学科は農芸化学とフィールド科学の 2 コースから成り、筆者が主催する地理空間情報学研究室は後者に属す。フィールド科学コースでは、農林業及びそれを支える生産環境などに関わる学問分野から成るカリキュラムを提供しており、当研究室は地理空間情報に関する教育・研究を担い、測量、地理情報システムやリモートセンシングなどの科目を担当している。地理空間情報を効果的に活用できる技術者の育成に貢献することを目標に、自然豊かな高知県のフィールドを活用して教育・研究活動に取り組んでいる。2024 年度は 3 年生 5 名、4 年生 3 名、研究生 1 名が当研究室に所属し、4 年生の進路は 2 名が就職（建設会社、建設コンサルタント）、1 名が大学院への進学であった。これにより、筆者が着任してからの卒業生の進路は、省庁 1 名、県庁 2 名、大学職員 1 名、建設会社 1 名、建設コンサルタント会社 4 名、IT 企業 1 名、小売業 1 名、進学 1 名となった。卒業生のうち、修習技術者（JABEE 認定プログラム修了者）は計 7 名となった。

2. 教育活動

2. 1 授業改善

3 年生以上向けに「リモートセンシング・演習」（2 学期、2 コマ 3 単位）を開講している。2024 年度の履修者は 28 名であった。この科目では、衛星リモートセンシングや UAV リモートセンシング等に関する基礎知識の教示とソフトウェアを用いた解析演習を行っている。2024 年度は、社会との繋がりを知る機会として、建設コンサルタント会社の技術者を招き、実利用例を紹介してもらう時間を設けた。活発な質疑があり、現場でどのように活用するのかイメージが深まったと思われる。

2. 2 卒業研究指導の改善

農林海洋科学部では、通常、3 年生 2 学期から研究室に所属し、4 年生 1 学期から卒業研究に着手する。当研究室ではこれまで、配属された 3 年生に対し、卒業研究の事前指導として研究テーマ及び実験計画の検討、データ収集用機器や解析用ソフトウェアの原理と使用方法、統計処理等を 2 学期に教示してきた。2024 年度は事前指導の新たな取り組みとして、プロジェクト管理の基本についての小講義を行った。卒業研究を通じて地理空間情報技術を深めるだけでなく、企画力・実行力・問題対応力を向上してもらうことを意図した。この効果については次年度以降に確認していきたい。

2. 3 高大連携の強化

文部科学省 DX 加速化事業に選定されている高知農業高校と連携し、地理空間情報の活用に関する出前授業の実施、地理情報システムを用いた演習林管理や UAV リモートセンシングによる作物圃場調査に関する課題探求授業の支援を行った。これらの活動には当研究室の学生も参加し、高校生との交流が行われ、高校生にとって大学での学びや生活を知る機会にもなったと思われる。

また、高知県の産業教育内地留学制度を利用して、幡多農業高校の教諭1名を研究生として当研究室に受け入れた。研究生とともに地理情報システムを用いた専門高校における専門教育向け教材開発に取り組んだ。開発した教材は、教諭と高校生への実演や学術講演会での専門家からの意見聴取を通じて有用性を確認できた。今後、開発教材が実際の授業現場で利用されることが期待される。

3. 研究活動

3.1 実施した研究テーマ

固定カメラ映像・UAV 画像・衛星画像の解析を通じて、以下のテーマに取り組んだ。

- 外来種オオキンケイギクの生育分布図作成
- 希少樹種ハナガシの新たな生育地の探索
- 土佐あかうしの発情兆候の早期検知
- 水稻の塩ストレス時の生産性評価
- 水稻高温障害の発生状況図の作成
- 森林資源量推定手法の精度評価

3.2 掲載論文

(ア) 高知大学放牧地における牧草量動態の可視化

衛星画像と状態空間モデルを用いて季節によらず牧草量を推定できる手法を提案し、牧草の育成状況や放牧による減少量を可視化した。これにより放牧地管理に資する知見の獲得を図った。(橋本ら 農業農村工学会論文集 92(2), I_223-I_230.)

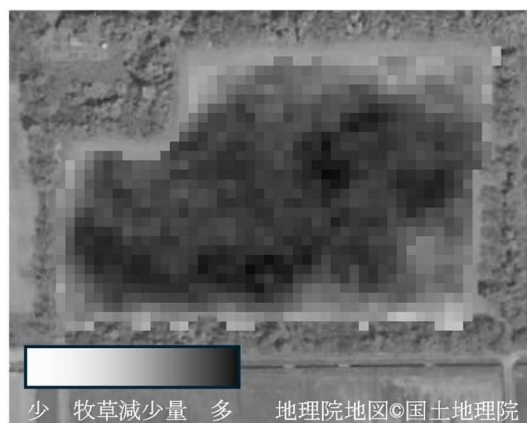


図-1 放牧後における牧草減少量の空間分布例

(イ) 物部川における濁度空間分布の可視化

衛星画像を用いて濁水の原因物質によらず濁度を推定できる手法を提案した。本手法により物部川において濁水発生時に濁度が上昇/低下する条

件や地点を明らかにした。(Hashimoto et al. River Res. Appl. 41(4), 942-952.)

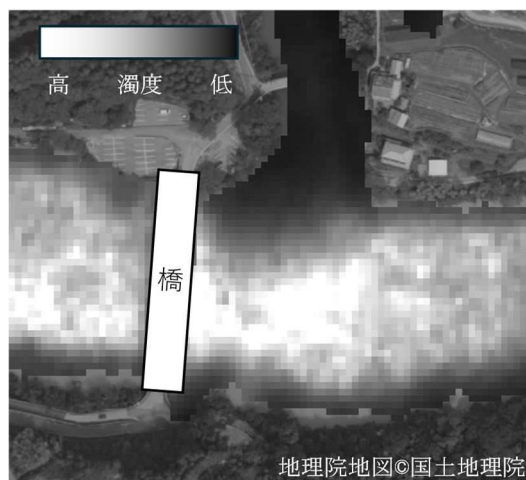


図-2 推定濁度の空間分布例(支流合流部)

(ウ) 水稻高温障害の南国市内発生状況の可視化

衛星画像と機械学習を用いて籾の不稔率を推定する手法を提案し、高温障害が生じている可能性のある南国市内の水田を可視化した。これにより、年や地域による被害状況の違いを明らかにした。

(Hashimoto et al. AgriEngineering 7(4), 122.)



図-3 高温障害発生状況図(南国市南部地域の例)

4. おわりに

2025 年度も引き続き、授業改善や高大連携に取り組む。また、研究体制を強化することで研究活動を加速させ、得られた成果の教育活動へのフィードバックを推進していきたい。

平成 30 年西日本豪雨災害を振り返って

愛媛県 建設／応用理学／総合技術監理部門
吉村 和司
YOSHIMURA Kazushi
(株)荒谷建設コンサルタント



1. はじめに

平成 30 年 7 月の西日本豪雨により、県道沿い斜面の 2 箇所で表層崩壊が発生した。崩壊発生直後に実施した地表地質踏査により、これらの崩壊は背後斜面にある地すべり岩塊が移動し末端部が押し出されたもの（写真-1 参照）と推察した。

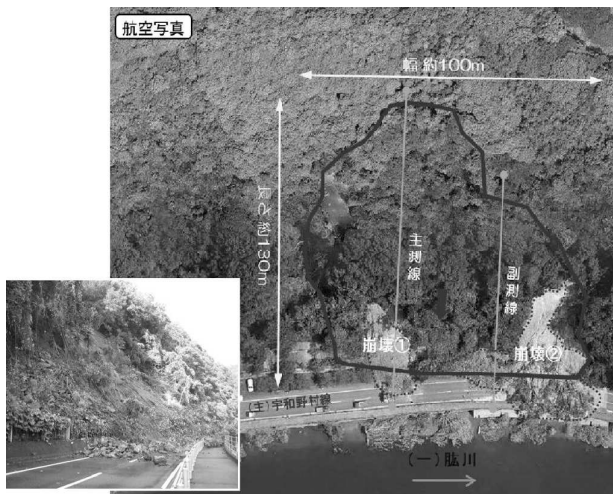


写真-1 被災状況

変状の分布状況を見ると、頭部位置が左右で異なる位置があることから 2 つの地すべりブロックが存在するものと推察し、地質調査計画を立案し地すべり規模や形態の把握に努めた。

2. 気象状況

平成 30 年 7 月 6 日に日雨量 249mm、5 日～8 日の累積雨量 485mm、6 日～7 日の 24 時間雨量

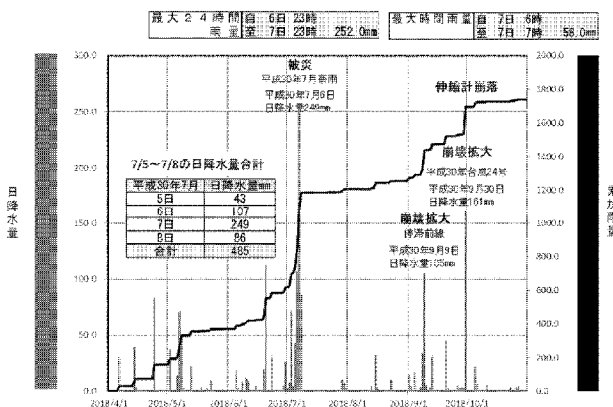


図-1 気象状況

252mm、7 日 6 時～7 時に時間雨量 58mm を記録した（図-1 参照）。

3. 地すべり規模・形態の推定

図-2 に示した地質調査（ボーリング・孔内傾斜計設置観測・自記水位計設置観測・地盤伸縮計設置観測）を実施した結果、地すべり規模および形態は以下のとおりと推察した（図-2・図-3 参照）。

【地すべり幅：約 100m】
【地すべり長：約 130m】
【すべり深さ：約 24.5m】
【勾配：平均 40°】
【地すべり形態：風化岩すべり（傾動を伴う）】

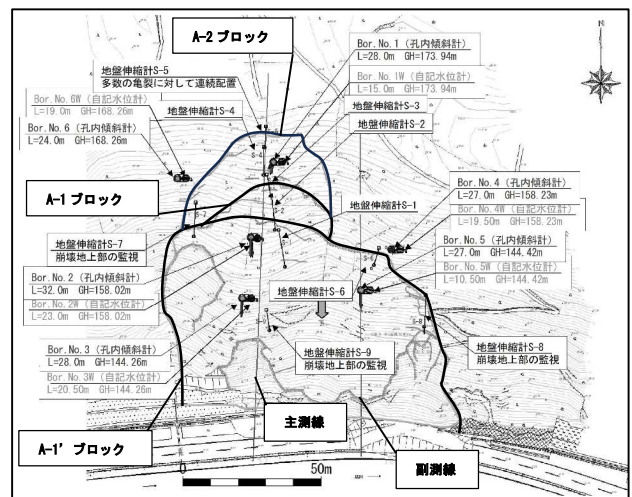


図-2 地すべり調査平面図

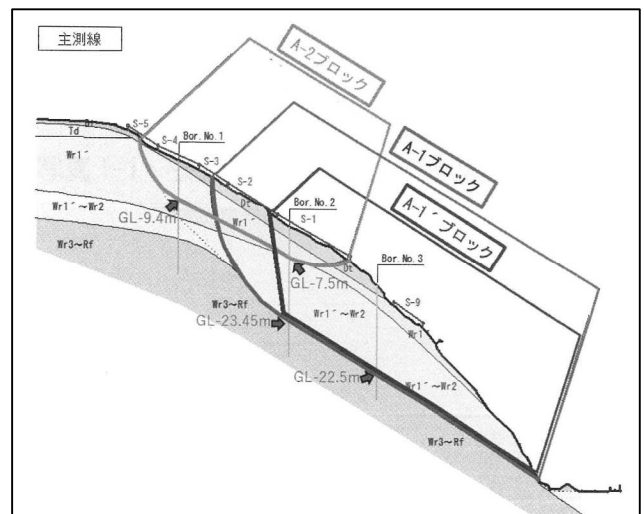


図-3 地すべり縦断面図

4. 地すべりメカニズムの想定

素因としては、①後背地にある段丘面からの地表水・地下水の供給、②秩父帯砂岩粘板岩互層中に潜在的に発達する多数の亀裂面、③河川の浸食作用を受け段丘面下部に形成された不安定な急斜面、④遷急線付近に想定される地質的弱面（高角度の断層）等があげられる（写真-2 参照）。

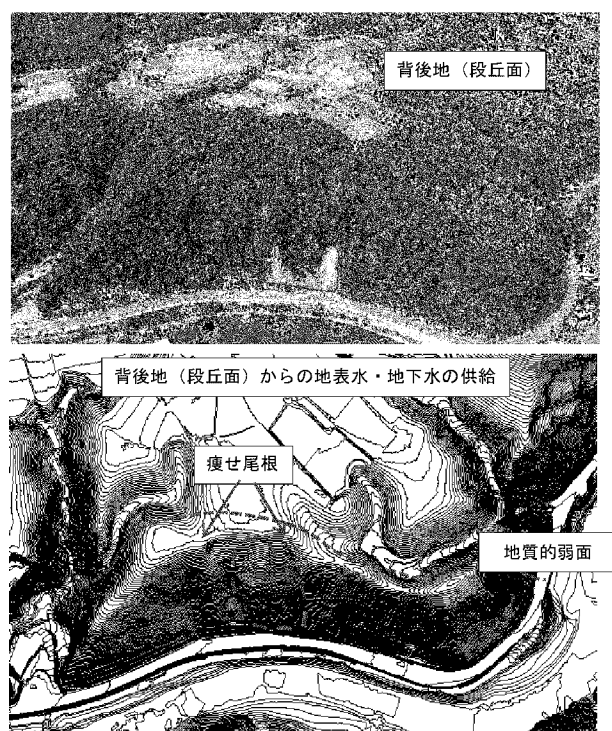


写真-2 素因となる地形の特徴

このような素因を有する斜面において、平成 30 年 7 月の記録的豪雨が誘因となり、地表水・地下水が集中しブロック内の地下水位が急上昇、抵抗力が低下したことで土塊バランスを消失し地すべりが発生したもの（図-4 参照）と推察した。

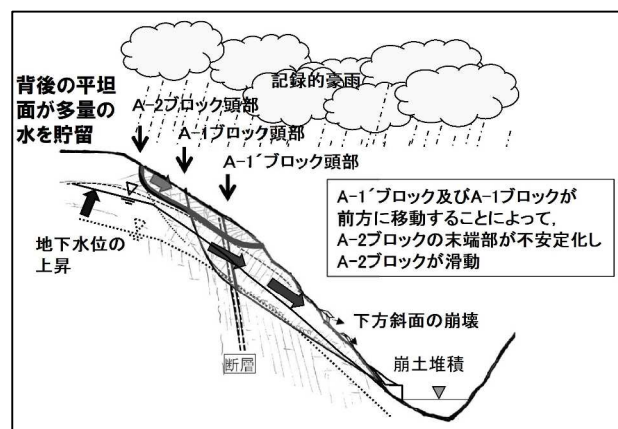


図-4 想定した地すべりメカニズム

5. 地すべり対策工

当該斜面直下には一級河川があり下流域にあるダムの湛水域が広がっている。地すべりが発生した場合、土砂ダムの形成により近隣の人家およびダムに甚大な被害をもたらすことが懸念されたため、地すべり斜面全体の安定化を図ることを目的として検討した。

検討に際し、災害発生日以降、無降雨状態でも継続して斜面が変動しているため現況安全率を $F_s=0.95$ に設定し、地層分布及び観測結果等をもとに計画安全率を確保するための地すべり対策工を検討した。各種工法を比較検討した結果、地すべり対策工は「横ボーリング工+頭部排土工+グラウンドアンカー工」（図-5 参照）を採用した。

復旧工事概要を以下に示す。

【復旧工事概要】

- 復 旧 延 長 : $L=141\text{ m}$
- 横 ボー リ ン グ 工 : $N=6\text{ 本}$
- 工 事 用 道 路 : $L=294\text{ m}$
- 排 土 工 : $V=71,000\text{ m}^3$
- 植 生 基 材 吹 付 工 : $A=7,360\text{ m}^2$
- 吹 付 法 枠 工 : $A=1,309\text{ m}^2$
- 鉄 筋 挿 入 工 : $N=633\text{ 本}$
- コ ン ク リ ート 吹 付 工 : $A=4,126\text{ m}^2$
- ア ン カ ー 工・受 圧 板 : $N=313\text{ 本}$

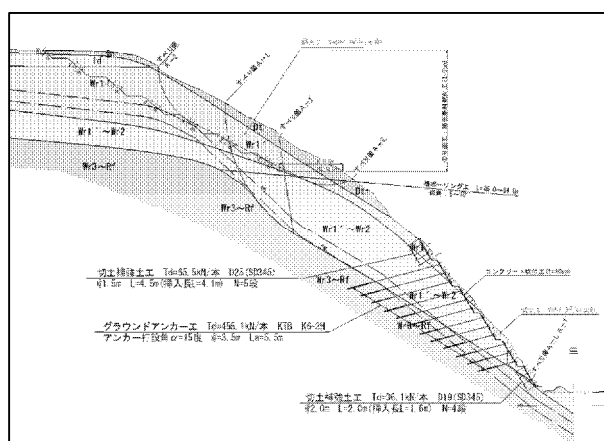


図-5 地すべり対策工断面図

6. 施工順序

検討結果をもとに設定した施工順序および施工中の安全率を図-6 に示す。

施工順序は、地すべりブロック外からの地下水排除工・地すべり頭部土塊の排土工を先行施工したうえで上部グラウンドアンカー工を施工し、県道上に堆積する崩土を撤去、その後、下部グラウ

ンドアンカー工を施工した。



図-6 対策工事のフロー

(1) 応急本工事

地盤伸縮計の観測結果から無降雨時でも変動が計測されていることからブロック内での施工は困難と判断し、地すべりブロック外から横ボーリング工を計画・施工した。なお、作業時の安全確保のため、地盤伸縮計に連動させた警報装置の設置および自動観測システムによる24時間監視体制を構築し、安全面に十分配慮しながら施工した。

(2) 排土工

排土工は排土量を鑑み斜面安全率が $Fs > 1.00$ を確保できる高さを基準面として計画した。



写真-3 排土工完成状況

なお、排土工は地すべりブロック側面から施工を行い、24時間監視体制による監視のもと地すべりブロック内の土塊を撤去する計画とした。

また、排土のり面勾配については後退性すべりが発生する危険性およびA-2ブロックの安定性を考慮したうえで比較検討し、1:1.2勾配に設定した(写真-3参照)。

(3) 上部グラウンドアンカー工

グラウンドアンカー工は、主測線で12段・副測線で9段計画したうち、対策後の斜面安全率が $Fs > 1.05$ を確保できる6段目まで先行施工したうえで、現道上に堆積する崩土を撤去し片側交互通行による交通開放を計画した。

なお、施工においてはグラウンドアンカー工施工前の斜面安全率が $Fs = 1.01$ と余裕のない状態で工事着手することとなり、高所かつ急斜面上での掘削作業となることから、施工時の安全確保を目的として無人掘削機を遠隔操作する「高所無人掘削工法」(写真-4参照)を採用している。

高所無人掘削工法は、道路からの掘削が困難な高さ5.0m以上の高所や施工掘削幅が2.0m未満の急斜面で重機の自立が困難な場所において、掘削・法面整形・既設モルタルの取り壊し等の作業を行う際に迅速かつ安全な施工が可能となる。

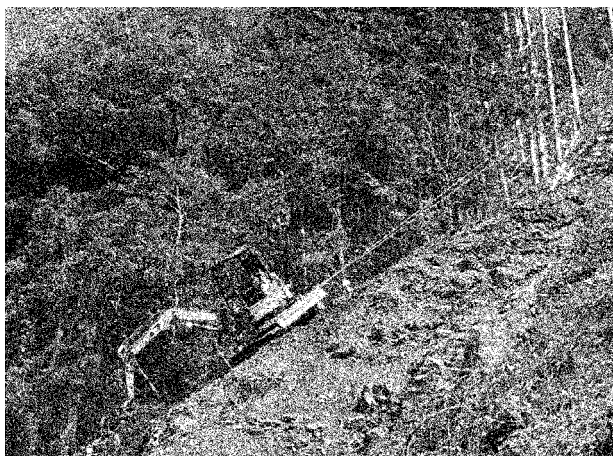


写真-4 高所無人掘削工法による施工状況

上部グラウンドアンカー工施工後、設置したアンカー荷重計に異常が認められないことを確認し、道路上の崩土を撤去し仮設防護柵を設置したうえで、発災から約4年2カ月を経て全面通行止めを解除し片側交互通行(写真-5参照)に切り替えた。



写真-5 片側交互通行による交通開放

(4) 下部グラウンドアンカー工

片側交互通行による交通開放後、下部グラウンドアンカー工（主測線：6段、副測線：3段）を施工し、斜面安全率 $F_s=1.15$ を確保した時点で片側交互通行を解除、全面開放を行った。写真-6に工事完成状況を示す。

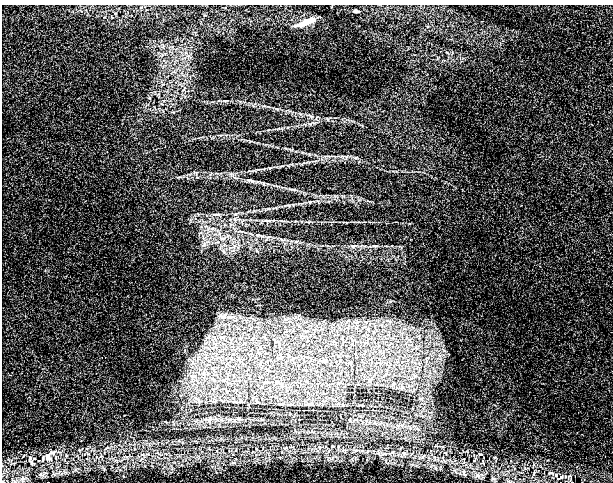


写真-6 工事完成状況

(5) 工事用道路

排土工に伴い多量の土砂搬出を行うため、ルート比較を行ったうえで、被災箇所背後地にある既設農道を利用した工事用道路を計画した。

土砂搬出は、1日あたり相当数の工事車両が走行し、近隣の道路交通に大きな負荷を与えることが想定された。また、地元住民から搬出経路は、小中学生の通学路となる市道および農道を走行するため、安全かつ節度あるダンプ運搬と、工事用道路周辺に農作物が広く栽培されているため工事関係車両の走行に伴う砂ぼこりによる農作物への

影響が生じないように粉塵対策を強く要望された。そのため、工事用道路のルート選定・環境保全対策を検討し、地元住民への説明会を複数回開催したことで、工事に対する理解を得ることができた。写真-7に工事用道路完成状況を示す。

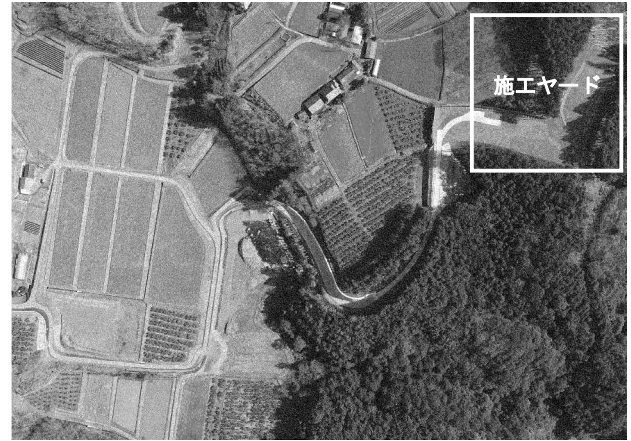


写真-7 工事用道路完成状況

7. おわりに

平成30年7月の発災から約5ヵ年で対策工事が完成したが、その間、地元関係者の皆様のご理解とご協力に感謝するとともに、工事に携われた発注者・施工業者・関係者の方々の大変なご苦労には敬意を表したい。

特に、継続した累積変位を示す活動中の地すべり斜面上の施工においては、想定外の原因から再度災害が発生する危険性を常に伴っており、細心の注意を払った安全管理が肝要である。

今後は、技術者として、対象箇所の地形地質条件や設計条件など確度の高い条件設定を行い、現地に適合した最適な対策計画等を立案する所存である。

以 上

令和 7 年度高知県地域防災フェスティバル出展参加報告

四国本部防災委員会

委員 山脇 雄一

YAMAWAKI Yuuichi



1. はじめに

2025年6月1日（日）に高知市で「令和7年度高知県総合防災訓練・地域防災フェスティバル（防災フェスタ in 高知 2025）」が開催されました。昨年度に引き続き防災委員会として2回目のブースを出展を行いましたので、参加者の意見や感想をとりまとめ、参加状況を報告します。

フェスティバルの概要を以下に示します。

地域防災フェスティバル概要

1) 目的

高知県主催の高知県総合防災訓練に併せて、地域防災フェスティバルを開催し、住民の皆様に関心を持って防災への意識を高め、自主防災活動の推進や地域での防災意識の高揚を図る。

2) 日時・場所

令和7年6月1日（日）10:00～15:00

高知県 高須浄化センター

3) 参加機関

国、市町村、消防、警察、自衛隊等の防災関係機関、民間企業など

4) 概要

（1）防災関係機関等による展示・体験事業

- ・起震車などを使用した災害体験
- ・消火訓練や倒壊家屋からの要救助者の救出など、さまざまな訓練の見学
- ・災害対応車両や各種パネルの展示
- ・あそぼうさいスタンプラリーの実施など

（2）飲食物、防災用品の販売

- ・高知県内の各地域の地場産品やご当地料理、県内企業の防災用品の販売

2. 参加までのスケジュール

①2025年3月：主催者へ出展希望調書提出

②2025年3～5月：防災委員会の高知メンバーと有志で参加内容・展示物の準備

3. 展示状況

1) イベントの状況

防災関係機関等による全45ブースの展示がありました。ブース間の通路にはNHK朝ドラ「あんぱん」で話題のやなせたかし氏が創作した高知県防災キャラクター「ヘルパちゃん」や「つなみまん」らが登場し、家族連れを主体に賑わいを見せておりました。



写真－1 イベントの状況

2) 技術士会展示ブースの状況

今年度は「液化化ってどんな場所で起こるの？」をテーマとして、展示ブースには技術士の活動紹介のほかに、液化化実験やハザードマップ等の説明、よろず相談等の各種コーナーを設けました。



写真－2 技術士会展示ブースの外観

3) 液状化実験コーナーの状況

砂を詰めたペットボトルや水槽を用いて簡易な液状化実験を行いました。参加型の展示として、子供連れの家族に好評のコーナーとなりました。



写真-3 液状化模型実験

4) よろず相談コーナー等の状況

高知市の各種ハザードマップ等を用いて、個別相談を行いました。自宅位置を確認するなどして、興味をもっていただきました。



写真-4 よろず相談



写真-5 展示パネルの説明

4. 今後の課題

参加者が感じた今後の課題を以下に列記します。

① 準備物等の強化：長机や椅子、パネルの増数

と配置の工夫。ブース前に出すのぼり旗の用意。スタッフの休憩場所や荷物置き場の確保。

② 液状化実験の工夫：実験後に土を混ぜ戻す作業に時間がかかるため、作業を簡素化する工夫や予備を増やす等の対応が必要。

③ 液状化マップの説明の工夫：今回の説明ではタブレットを使ったが、モニター等で画面を大きくしても良い。平面データのみでは、液状化判定エリア分けの意味が伝わりにくいため、地質断面図も併用するほうが良さそう。



写真-6 ハザードマップ等の説明

④ 相談コーナーの待ち時間解消対策：相談者が複数の場合でも待ち時間を減らせるように、ブース内の配置を検討する必要がある。

⑤ 技術士会のアピール：各説明の中で技術士（会）をなるべくアピールしたい。資格に興味のある学生には、受験案内資料や現役技術士の職務紹介などがあってもよい。

5. 感想

来場者は防災意識が高く、地震や津波に対する知識はお持ちでしたが、液状化の仕組み等についてはよくわからない部分もあり、熱心に話を聞いてもらえました。

6. おわりに

昨年を上回る 200 人超の来訪があり、展示者側としてもやりがいを感じることができました。今回の経験を生かして、今後も防災に関する啓蒙活動を継続していきたいと考えています。

最後に、イベントへの参加や展示に当たり高知県をはじめとする主催者・関係者の皆様には大変お世話になりました。ここに御礼を申し上げます。

令和7年度(第16回)年次大会報告

四国本部広報委員会
委員長 岩佐 隆
IWASA Takashi



1. はじめに

2025年7月14日(月)、高松市のホテルパールガーデンにおいて、令和7年度(第16回)年次大会を開催した。その概要について報告する。

2. 本部長挨拶要旨

2024年度も多くの事業活動を実施してきたが、本年度も四国本部の『新たなビジョン・事業方針』(詳しくは四国本部 HP 参照)に基づき、引き続き多くの取り組みを継続・計画している。

本年の実施事業のトピックスとしては、令和7年10月3日に「第45回地域産学官と技術士との合同セミナー」を高知で開催し、『川と暮らし、川と育む～防災・環境・観光が共存する持続可能な河川活用～』と題して、最新の取り組み事例や課題を共有しつつ、今後の地域に根ざした持続可能な河川活用のあり方、方向性を探る予定である。

一方、他地域本部との連携においては、令和7年11月14日～15日、「第29回西日本技術士研究・業績発表年次大会」が中国本部主催にて広島市で開催される。

さらに、令和7年10月25日～28日、「第51回技術士全国大会」が九州・熊本にて開催される。全国から多くの技術士が参加するので、四国本部の皆様も参加し、技術の研鑽はもとより他の地域本部の方々との交流を深めていただければと願っている。

そして、日本技術士会統括本部における昨今のトピックスとしては、①技術士制度におけるIPD・CPDについて、②技術士資格の活用促進・普及拡大に向けた取り組み、③ガバナンス強化(DEI推進宣言等)、④技術士倫理啓発、資質向上、⑤大規模自然災害に対する防災・復興支援活動への貢献などが挙げられる。

本年度も皆様方とともに技術士の地位向上・認

知度向上、社会への貢献、四国本部のさらなる発展をめざし、会員の皆様に満足していただける会となるよう努めて参りたい。

3. 議事概要

令和6年度事業報告及び収支決算報告並びに監査報告、令和7年度事業計画及び収支予算、四国本部の組織運営体制について、それぞれ谷脇事業委員長及び栗本事務局長、菊池会計幹事より報告があった。

4. 本部長表彰の授与

四国本部の委員会委員を5年以上務めるなど、顕著な活動実績があった次の5名の正会員に表彰盾が授与された。

男女共同参画推進小委員会委員	岩井 綾 氏
防災委員会委員	北川 尚 氏
男女共同参画推進小委員会委員	春口 孝之 氏
事業委員会委員	藤田 耕二 氏
試験業務支援委員会委員	水野 隆之 氏



写-1 左から受賞者の藤田委員、岩井委員と天羽本部長

5. おわりに

今後とも、四国本部の活動へのご理解・ご支援をお願いします。

公益社団法人日本技術士会四国本部 役員名簿

令和 7 年 7 月 1 4 日選任（県別、五十音順）

役職名	氏 名	技術部門	県 名	勤 務 先	備 考
本 部 長	天羽 誠二	建設、総合	徳島県	四国建設コンサルタント(株)	
副本部長	富士 達雄	建設、総合	徳島県	(株)エフ設計コンサルタント	
副本部長	末澤 等	建設、総合	香川県	—	
副本部長	岩佐 隆	建設、環境、総合	愛媛県	協和道路(株)	広報委員長
副本部長	河野 一郎	建 設	高知県	(株)山興	
幹 事	大寺 礼子	建設、総合	徳島県	(株)フジタ建設コンサルタント	男女共同参画推進小副委員長
幹 事	佐藤 悦史	建設、総合	徳島県	エスシー企画(株)	
幹 事	豊崎 裕司	建設、総合	徳島県	四国建設コンサルタント(株)	総務委員長
幹 事	仲間 真紀	建設、応用理学、総合	徳島県	—	男女共同参画推進小委員長
幹 事	加藤 均	建設、総合	香川県	H K 事務所	試験業務支援委員長
幹 事	北山 和宏	建設、上下水道、総合	香川県	高松市役所	
幹 事	栗本 好正	建設、総合	香川県	(株)ファルコン	事務局長
幹 事	白鳥 実	建 設	香川県	(株)四電技術コンサルタント	
幹 事	末次 綾	建設、環境	香川県	(株)四電技術コンサルタント	男女共同参画推進小副委員長
幹 事	谷脇 準藏	建設、総合	香川県	五洋建設(株)	理事、事業委員長 総務副委員長、事務局次長
幹 事	友安 啓介	電気電子	香川県	三菱電機(株)	
幹 事	藤本 耕次	建設、応用理学	香川県	復建調査設計(株)	修習技術者支援委員長
幹 事	丸山 正	建 設	香川県	青葉工業(株)	倫理小委員長
幹 事	小椋 匡	建 設	愛媛県	(株)富士建設コンサルタント	
幹 事	木下 尚樹	建 設	愛媛県	愛媛大学	
幹 事	木村 一成	建設、応用理学	愛媛県	ケイジオ	防災委員長
幹 事	正岡 久典	建設、応用理学、総合	愛媛県	共立工営(株)	事業副委員長
幹 事	吉村 和司	建設、応用理学、総合	愛媛県	(株)荒谷建設コンサルタント	
幹 事	大西 誠一	建 設	高知県	(株)ロイヤルコンサルタント	事業副委員長
幹 事	中根 久幸	建設、応用理学	高知県	田村ボーリング(株)	高知県支部長
幹 事	西村 紘寛	建 設	高知県	(株)第一コンサルタンツ	青年技術士交流委員長
幹 事	松本 洋一	建 設	高知県	(株)第一コンサルタンツ	高知県支部事務局長
幹 事	横山 成郎	建設、総合	高知県	高知工科大学	修習副委員長、倫理小副委員長
会計幹事	菊池 昭宏	建 設	徳島県	(株)和コンサルタント	
会計幹事	安西 慎	建 設	香川県	(公財)香川県建設技術センター	

特別顧問、参与

	氏 名	技術部門	県 名	勤 務 先	備 考
特別顧問	加賀 晃次	建設、総合	徳島県	(株)フジみらい	本部長（H23～H25） 理事（H25～H29）
特別顧問	武山 正人	建 設	香川県	—	理事（H21～H25） 本部長（H25～H29）
特別顧問	古野 隆久	建 設	徳島県	(株)ファルコン	本部長（H29～R5）
参 与	右城 猛	建設、総合	高知県	(株)第一コンサルタンツ	副本部長（H22～R3） 理事（H29～R3）
参 与	須賀 幸一	建設、総合	愛媛県	(株)芙蓉コンサルタント	副本部長（H22～R7） 理事（R3～R7）
参 与	亀田 進	建設、総合	香川県	亀田技術士事務所	幹事（H27～R1） 試験委員長（H28～R1） 事務局次長（H27～現在）

総務委員会報告

四国本部 総務委員会
委員長 豊崎 裕司
TOYOSAKI Yuji



1. はじめに

四国本部総務委員会は、常設 7 委員会と男女共同参画推進小委員会、倫理小委員会の 2 小委員会の正副委員長及び高知県支部 3 役の 26 名により構成され、四国本部の秩序・信用の維持、組織・運営管理及び財務の管理に関する事項等、四国本部の運営・活動の根幹に係る基本事項について検討・調整を行っており、下記（１）～（３）の基本方針に基づいた活動を行っています。

（１）四国本部ビジョンで掲げる「４つの事業方針」の実現に努めることとし、下記 1)～5) を活動ポイントとしています。

- 1) 四国らしい特色のある活動
- 2) 地域に根ざした社会貢献活動の取組み
- 3) 一般にも興味深く話題性があるテーマ設定
- 4) 出来るだけ多部門の技術士が参加出来る事業内容
- 5) 多様な連携の推進

（２）公益社団法人としてふさわしい対外的な活動の活発化により、認知度の向上を図る。

（３）組織としての魅力度を高め、会員サービスを向上させ、会員数の拡大増強を図る。

これらの基本方針を着実に推進することにより、四国本部に所属する技術士の発展に繋げ、更には未入会者の技術士会への参画を促す活動に努めて行くこととしています。

2. 総務委員会開催状況及び活動報告

（１）四国本部総務委員会

日程：令和 6 年 8 月 2 日

会場参加 10 名、Web 参加 6 名

主な議題：各委員会懸案事項等の討議

（２）統括本部総務委員会

1) 日程

2023－25 期総務委員会について、2024 期は以下の日程で 6 回の開催となっています。

第 7 回：令和 6 年 8 月 22 日

第 8 回：令和 6 年 10 月 16 日

第 9 回：令和 6 年 12 月 18 日

第 10 回：令和 7 年 2 月 13 日

第 11 回：令和 7 年 4 月 17 日

第 12 回：令和 7 年 6 月 19 日

コロナ禍以降、WEB と対面形式の併用によるハイブリッドで実施されるようになりまして、地方からでも参加しやすくなりました。

2) 議事概要

①名誉会員推薦規則の改定について(第 7 回)

・改定が、理事会に付議できるようになった。

②地域組織における役員の責務に関する手引きの改訂について(第 8 回)

・手引きの狙いの明確化、整合性確保の観点から改訂を行った。

・規則の運用原則について確認した。

③役職員倫理規則、コンプライアンス委員会設置・運営規則、公益通報者保護規則の改定、また懲戒規則の制定(第 9 回)

④四国本部マスコミ報道等の好事例としての紹介(第 9 回)

⑤ホワイトリスト（最新版）(第 10 回)

⑥2025 年度新名誉会員、会長表彰者について(第 11 回)

⑦行事運営上の後援等の名義使用等に関する規則の運用について(修正)(第 11 回)

⑧個別規定に基づく委員会の規則の改定について(第 12 回)

⑨海外団体招待セミナー・会合のガイドライン(案)について(第 12 回)

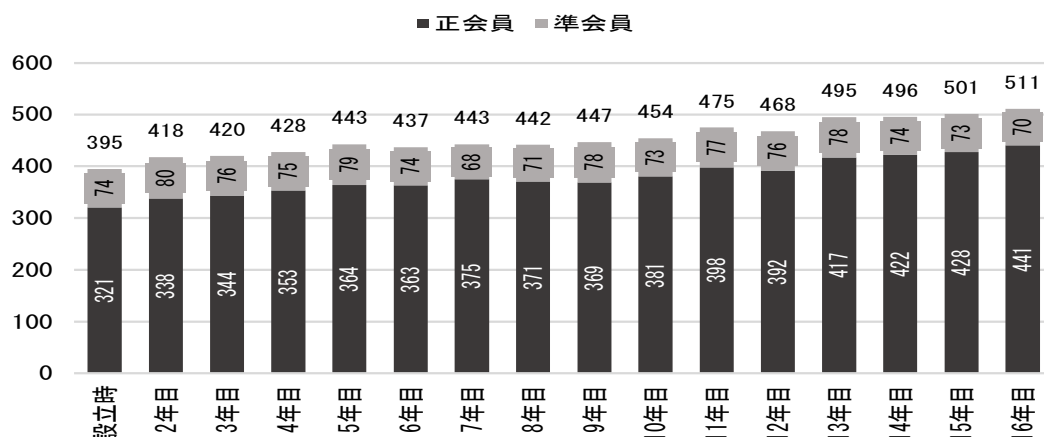


図-1 会員数の経年変化

表-1 正会員の推移

3. 四国本部会員数の状況とその取り組みについて

(1) これまでの取り組み

会員拡大の取り組みは総務委員会の最重要課題として、各種施策における成果や指標を確認しながら重点的に取り組んでいるテーマです。コロナ禍の下では入会者数の鈍化が見られましたが、徐々に改善の傾向がみられ、令和7年4月現在、正会員441名となっており、純増の改善傾向を見せています。

(2) 今後の取り組み

会員に対するメリットやサービスを向上させる一環として、逐次、四国本部HPの改訂を行っています。会員、準会員、更に一般、学生に対しても四国本部が実施する行事内容がタイムリーに発信出来るよう、今まで以上に適時適切な情報提供サービスに努めることとしていきます。

現在、統括本部HPのトップページには技術士会入会7つのメリットが示されております。これらのメリットを会員の皆様方にも十分に享受していただけるように、四国本部としても、提供するサービスや事業内容の充実を図って行きたいと考えており、これまで以上に社会的な認知度の向上が図られる事業の企画運営に努めてまいります。

4. おわりに

会員数の増加は四国本部の更なる活性化と発展には欠かせない要素となっていますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

	現 在 R7.4 現	設 立 時 H22.5 末	設 立 前 H21.3 末
徳島県	80	72	63
香川県	161	133	111
愛媛県	93	69	58
高知県	107	47	37
四国計	441	321	269

表-2 技術部門会員数 (R7.4 現在)

技 術 部 門	正会員	準会員	合計
機 械	14	9	23
船 舶・海 洋	1	0	1
航 空・宇 宙	0	0	0
電 気 電 子	16	6	22
化 学	1	1	2
織 維	2	0	2
金 属	1	1	2
資 源 工 学	1	0	1
建 設	310	30	340
上 下 水 道	35	7	42
衛 生 工 学	9	1	10
農 業	23	8	31
森 林	9	3	12
水 産	0	0	0
経 営 工 学	5	1	6
情 報 工 学	5	5	10
応 用 理 学	33	3	36
生 物 工 学	5	3	8
環 境	13	11	24
原子力・放射線	0	0	0
合 計	483	89	572
総 合 技 術 監 理	126	0	126
純 会 員 数	441	70	511

事業委員会報告

四国本部事業委員会

委員長 谷脇 準蔵

TANIWAKI Junzou



1. はじめに

事業委員会は、「技術力並びに資質向上活動」と「社会貢献活動」、「技術士の認知度向上」を基本方針として、CPD セミナーや公開講座等を年 8 回（2 回/県）開催しています。また一昨年より 4 県連続開催となった“地域産学官と技術士との合同セミナー”を開催、4 年に 1 回の頻度で“西日本技術士研究・業績発表年次大会”の交流行事を開催して会員サービスの向上を図っています。一方、社会情勢の変容に追隨して、令和元年に男女共同参画推進小委員会を新たに事業委員会内に組織し、女性技術士の活躍と共同をテーマとしたサロンを開催する等、時代の要請に応えた活動が活発化しています。

令和 6 年度は、各県 2 回、計 8 回の CPD セミナー・公開講座、及び技術士第二次試験合格者祝賀会を、表-1 のメンバーで企画・実施し、令和 6 年 10 月 23 日には徳島市において“第 44 回地域産学官と技術士との合同セミナー”を開催しました。

また、4 県それぞれにおいて他組織と連携し継続している行事について参加協力を行っています。

2. 令和6年度の活動報告

◆第 93 回 CPD セミナー・公開講座（徳島）

（防災セミナー、令和 5 年度技術士第二次試験合格者祝賀会併催：徳島会場）

- ・日時：令和 6 年 5 月 18 日（土）
- ・場所：ホテル千秋閣
- ・参加者：48 名（うち Web 参加者 5 名、新規合格者 5 名）

◆第 94 回 CPD セミナー・公開講座（愛媛）

（防災セミナー、令和 5 年度技術士第二次試験合

格者祝賀会併催：愛媛会場）

- ・日時：令和 6 年 6 月 1 日（土）
- ・場所：えひめ共済会館
- ・参加者：54 名（うち Web 参加者 8 名、新規合格者 6 名）

表-1 令和 6 年度事業委員会名簿（敬称略）

役職名	氏 名	技術部門	県 名	勤 務 先
委員長	谷脇 準蔵	建 設	香川県	五洋建設㈱
副委員長	正岡 久典	建設、応用理学	愛媛県	共立工営㈱
副委員長	大西 誠一	建 設	高知県	㈱ロイヤルコンサルタント
委 員	大村 史朗	建 設	徳島県	四国建設コンサルタント㈱
委 員	花岡 史恵	建 設	徳島県	㈱エフ設計コンサルタント
委 員	山村 猛	建 設	徳島県	エスシー企画㈱
委 員	片山 順一	機 械	香川県	㈱石垣
委 員	田岡 靖紀	衛生工学	香川県	㈱四電工
委 員	豊嶋 以長	建 設	香川県	豊嶋技術士事務所
委 員	丸山 正	建 設	香川県	青葉工業㈱
委 員	山地 健二	上下水道	香川県	㈱フソウ
委 員	吉田 智紀	機 械	香川県	㈱石垣
委 員	仙波 正司	農 業	愛媛県	共立工営㈱
委 員	藤田 耕二	建設、森林、応用理学	愛媛県	国土防災技術㈱
委 員	増田 信	建設、応用理学	愛媛県	㈱愛媛建設コンサルタント
委 員	松村 法行	森林、応用理学	愛媛県	大日本ダイヤコンサルタント㈱
委 員	岡林 弘憲	建 設	高知県	都市開発コンサルタント㈱
委 員	小川 修	建設、上下水道	高知県	四国建設コンサルタント㈱
委 員	河野 一郎	建 設	高知県	セントラルコンサルタント㈱
委 員	下村 昭司	建 設	高知県	㈱ワタリコンサルタント
委 員	中根 久幸	建設、応用理学	高知県	田村ボーリング㈱
委 員	西川 準二	建 設	高知県	㈱アンプル
委 員	松本 洋一	建 設	高知県	㈱第一コンサルタンツ
委員補佐	石垣 孝行	上下水道	香川県	㈱総合コンサルタンツ
委員数 24 名（委員補佐 1 名含む）				

◆第 95 回 CPD セミナー・公開講座（香川）

（四国本部年次大会/防災セミナー、令和 5 年度技術士第二次試験合格者祝賀会併催：香川会場）

- ・日時：令和 6 年 6 月 18 日（火）
- ・場所：ホテルパールガーデン
- ・参加者：113 名（うち Web 参加者 15 名、新規合格 4 名）

◆第 96 回 CPD セミナー・公開講座（高知）
（高知県支部年次大会・設立 5 周年記念/令和 5 年度技術士第二次試験合格者祝賀会併催：高知会場）
・日時：令和 5 年 6 月 30 日（金）
・場所：高知会館
・参加者：120 名（うち Web 参加者 1 名、新規合格者 6 名）

◆第 97 回 CPD セミナー・公開講座（高知）
（高知例会/防災セミナー、修習技術者支援セミナー併催）
・日時：令和 6 年 11 月 8 日（金）
・場所：高知会館
・参加者：84 名（うち WEB 参加 4 名）

◆第 98 回 CPD セミナー・公開講座（愛媛）
（防災セミナー併催）
・日時：令和 6 年 12 月 7 日（土）
・場所：えひめ共済会館
・参加者：47 名（うち WEB 参加 8 名）

◆第 99 回 CPD セミナー・公開講座（香川）
（防災セミナー併催）
・日時：令和 6 年 12 月 13 日（土）
・場所：サンポートホール高松
・参加者：セミナー32 名（うち WEB 参加 3 名）

◆第 100 回 CPD セミナー・公開講座（徳島）
（防災セミナー併催）
・日時：令和 7 年 1 月 18 日（土）
・場所：阿波観光ホテル
・参加者：セミナー44 名（うち WEB 参加 11 名）

◆第 44 回地域産学官と技術士との合同セミナー（徳島）
・日時：令和 6 年 10 月 12 日（土）
・場所：ザ・グランドパレス徳島
・参加者：106 名

◆令和 6 年度学校防災アドバイザー派遣事業への協力

・派遣実績：23 校園、延べ派遣者 50 名

◆香川高等専門学校への「学生のキャリア支援のための出前講座」
・令和 6 年：計 4 回、学生 164 名、技術士 53 名

◆「お仕事フェスタ 2025」職業ガイダンスブースへの参加
・日時：令和 7 年 3 月 8 日（土）9 日（日）
10：00～16：00
・来場者：8 日 54 名、9 日 46 名、計 100 名

◆児童館での理科教室の実施
・日時：令和 6 年 10 月 5 日（土）13:00～16:00
・参加者：30 名

3. 令和7年度の事業計画

令和 7 年度は、各県 2 回計 8 回の CPD セミナー・公開講座を継続し開催する予定で、さらに、“地域産学官と技術士との合同セミナー”を四国で 4 県目となる高知県で開催する予定としています。

他組織と連携した継続の取り組み行事も鋭意実施していく予定です。令和 4 年度の後期より WEB システムの同時配信を始めていますことから全国からの参加者が聴講したいと思える内容のセミナー充実を図って行きたいと考えています。

4. 事業委員会の実施報告

令和 6 年度も全体事業委員会は開催出来ませんでしたが、各県幹事を交えた喫緊の課題等について Web 会議において意見交換を実施しました。

【調整内容の骨子】

- ①諸物価高騰に伴う事業収支対応について
- ②案内文の統一表記について
- ③セミナー企画運営上の注意点について

5. おわりに

令和 6 年度の事業委員会活動は、会員の皆様方のご支援・ご協力によりまして、予定どおり執り行うことができました。改めて御礼申し上げます。

広報委員会報告

四国本部広報委員会
委員長 岩佐 隆
IWASA Takashi



1. 活動方針と令和6年度の活動報告

広報委員会の活動は、四国本部会報「PE しこく」の定期発行とホームページの充実を軸として、四国本部技術士の研究・業績・貢献を、広く社会に広報することを基本方針としています。この方針の基に、令和6年度においては、以下のメンバーで広報活動に取り組みました。

【令和6年度広報委員会メンバー】

委員長：岩佐 隆 (愛媛県)
副委員長：西沢 尚之 (香川県)
委員：菊池 昭宏 (徳島県)
大原 隆司 (香川県)
朝倉 光司 (香川県)
豊嶋 以長 (香川県)
原田 徹 (愛媛県)
小椋 匡 (愛媛県)
筒井 秀樹 (高知県)
國土 新彦 (高知県)
中森 育誌 (高知県)

【令和6年度の主な活動内容】

- 1) 四国本部会報 Vol.27 (R6.7 月) 発行
Vol.28 (R7.2 月) 発行
- 2) ホームページの運営
- 3) 月刊技術士への協力・連携及び統括本部 HP への CPD 行事等予定掲載
- 4) 月刊技術士への四国本部会員の掲載
 - ①R6.6 月号：[地域本部から]「第 43 回地域産学官と技術士との合同セミナー（高松）」丸山 正
 - ②R7.2 月号：[地域本部から]「高知県支部設立 5 周年を迎えて」松本 洋一
 - ③R7.3 月号：[地域本部から]「第 44 回地域産学官と技術士との合同セミナー（徳島）」大村 史朗

- 5) 四国本部技術士第二次試験合格者祝賀会・修習技術者支援セミナー等における「(公社)日本技術士会四国本部の紹介」

2. 会報の発行について

四国本部の会報「PE しこく」は、夏と冬の年 2 回発行しています。

そして、発行までのスケジュールを定め、そのスケジュールに則り、皆様に論文募集案内を行います。

ちなみに、今回の Vol.29 に関するスケジュールは次の通りでした。

- ①投稿のご案内 ⇒ 4 月下旬
- ②投稿申し込み締め切り ⇒ 5 月中旬
- ③原稿締め切り ⇒ 6 月中旬
- ④原稿最終校正 ⇒ 6 月下旬
- ⑤会報発行 ⇒ 7 月中旬

令和6年度に開催された CPD セミナー・公開講座・防災セミナーは Vol.28 に掲載しました。

会報は、主に「四国本部に在籍する会員・準会員のご投稿による研究・研鑽の成果及び雑感等、各委員会の活動報告、高知県支部(H30 年度設立)活動報告、四国本部と協力関係にある各県技術士会（徳島・香川・愛媛）の活動だより」等で構成しています。

また、各県技術士会に所属する非会員技術士等については、「四国本部会員の紹介」という形で投稿ができるものとしています。

これらの投稿原稿に加えて、Vol.3 から、各県持ち回りのインタビュー形式による「四国発技術士紹介」を、Vol.11 から、神原元広報委員のエッセイからバトンを繋いでいく「会員リレーエッセイ」を掲載しています。

会員の皆様にもそのうちバトンが届くと思いますので、その節はよろしくお願いします。

3. 広報委員会の活動

(1)委員会

広報委員会は、新型コロナウイルス感染対策で始めた Web 会議システムでの委員会を議題案件により適用しています。

◆令和6年度 広報委員会開催結果

- ・第1回：令和6年9月14日（四国中央市）
- ・第2回：令和6年11月8日（高知市）

【議事内容】

- 1)「PE しこく」の掲載内容について、
7月発行→高知県支部活動報告及び各県技術士会だより、各委員会報告
2月発行→CPDセミナー等行事報告
- 2)令和7年度の事業計画（案）
 - ①「PE しこく」の発行は年2回とし、7月及び1月に発行する。
※会報への投稿者が増える仕掛け作りを行うなどして、会報の内容を充実させる。
 - ②各委員会、事務局と連携してホームページのコンテンツを充実させるとともに有効利用を図る。
 - ③各種行事の実施にあたり、主管委員会と連携して各県のマスコミ機関への広報を強化し、一般市民等への参画を促す。
 - ④統括本部との「合同広報委員会」を通じて月刊技術士への協力を行うとともに、新たな広報のあり方について検討を行う。
- 3)「PE しこく」の論文募集案内（案）



写真-1 第1回広報委員会の様子



写真-2 第2回広報委員会の様子

(2)ホームページの運営・管理

四国本部ホームページは、平成22年12月9日に運用を開始し、現在に至っています。

本ホームページは、WordPress という CM（コンテンツマネジメントシステム）にて構築しているため、構築後の時間経過により利用しているプラグイン等が現在サポートされていないものもあり、一旦、最新のプラグインセットで再構築しておく必要があります。

そのため、セキュリティの強化と保守の容易性を確保するとともに、デザインを含めて順次改訂していきます。

また、各地域本部の会報誌についてリンクを貼るかたちで統括本部 HP で一括紹介しており、他の地域本部との情報共有や連携が進んでいくものと考えます。

4. 今後の広報委員会の活動

令和6年度は、四国中央市「川之江文化センター」及び高知市「高知会館」で委員会を対面により開催することができました。

当委員会では、今後も「PE しこく」および、四国本部ホームページのコンテンツを充実させて、四国本部の広報強化に努めていく所存です。

さらに、他の委員会活動と連携しながら、私たち技術士（技術士会）の認知度を上げ、社会貢献につながることに資するべく、広報活動を展開していこうと考えています。

今後とも、皆様から広報活動全般に関わるご意見や、ご指導をいただければ幸いです。

修習技術者支援委員会報告

修習技術者支援委員会

副委員長 藤本 耕次

FUJIMOTO Koji



1. はじめに

修習技術者支援委員会の活動は、修習技術者をはじめとした技術士を目指す全ての技術者に対し、技術士に必要なコンピテンシーの理解・獲得・向上を支援することを目的とし、技術士制度や IPD（初期専門能力開発）に関する各種セミナー開催等の活動を行っています。

本委員会は、四国各県から選出された委員で構成されています。

【令和 6 年度委員会構成】（敬称略、順不同）

委員長	：木下 尚樹	（愛媛県）
副委員長	：藤本 耕次	（香川県）
副委員長	：横山 成郎	（高知県）
委員	：一宮 礼人	（徳島県）
	金澤 隆	（徳島県）
	谷本 陽一	（徳島県）
	平野 嘉久	（徳島県）
	森田 朗	（徳島県）
	太田 昌秀	（香川県）
	佐々 平和	（香川県）
	松田 靖博	（香川県）
	新家 研蔵	（香川県）
	吉村 和司	（愛媛県）
	藤本 憲洋	（愛媛県）
	宮崎 博志	（愛媛県）
	井上 博喜	（愛媛県）
	佐川 徳和	（高知県）
	松本 直	（高知県）

2. 令和 6 年度活動方針

(1) 修習技術者支援活動

- ①修習技術者向けのセミナーを各県で開催
- ②修習ガイドブック第 3 版をセミナーに反映
- ③各県支部・技術士会活動への協力、連携

(2) JABEE 認定課程教員・在校生へ技術士制度説明

- ①技術士制度説明会の開催
- ②試験業務支援、青年技術士交流委員会との連携による技術士制度普及活動

3. 令和 6 年度活動報告

(1) 修習技術者支援委員会

1) 第 40 回修習技術者支援委員会（参加 16 名）

日時：令和 7 年 2 月 18 日（火）

場所：Web 会議（Zoom ミーティング）

議題：①令和 6 年度事業進捗

②令和 7 年度事業計画・スケジュール

③その他 修習技術者発表全国大会、委員会内資料共有、令和 7 年度委員会体制について 他

(2) 修習技術者支援セミナー

1) 第 54 回修習技術者支援セミナー（徳島）

日時：令和 6 年 9 月 28 日（土）

場所：復建調査設計（株）四国支社 4F 会議室

参加：13 名（内、修習技術者 4 名、一般（修習未満）4 名）

内容：

①講義「技術士試験と修習のあり方について」

講師：平野 嘉久 委員

②技術士第二次試験合格者発表

本田 啓樹 氏（建設部門）

徳政 明洋 氏（建設部門）

③修習技術者による発表

平岡 一明 氏（応用理学部門）

河野 知里 氏（建設部門）

2) 第 55 回修習技術者支援セミナー（高知）
（例会と同時開催）
日時：令和 6 年 11 月 8 日（金）
場所：高知会館
参加：73 名（内、修習技術者 5 名）
内容：講義「技術士及び技術士制度について」
講師 佐川 徳和 委員

3) 第 56 回修習技術者支援セミナー（香川）
日時：令和 7 年 2 月 1 日（土）14:00～17:00
場所：復建調査設計(株)四国支社 4F 会議室
参加：12 名（内、修習技術者 3 名、一般 2 名）
内容：
①講義「技術士試験と修習のあり方について」
講師：藤本 耕次 委員
②技術士第二次試験合格体験談
小田原 光希 氏（建設部門）
朝倉 真楠 氏（建設部門）
③グループディスカッション
修習技術者支援セミナーの内容など意見交換

4) 第 57 回修習技術者支援セミナー（愛媛）
（第 10 回技術者倫理セミナーと合同で開催）
日時：令和 7 年 3 月 29 日（土）
場所：松山市男女共同参画推進センター
参加：19 名（内、修習技術者 6 名）
内容：
①講義「技術士及び技術士制度について」
講師：宮崎 博志 委員
②技術士第二次試験合格体験談
兵頭 伸幸 氏（建設部門）
松田 幸樹 氏（建設部門）

(3) JABEE 認定課程教員・学生向け「技術士制度説明会」

1) 日時：令和 6 年 4 月 25 日（木）14:35～16:05
場所：徳島大学 共通講義棟 4 階 407 号室
参加：66 名
内容：講義「資格を取得しよう！：技術士」
講師：谷本 陽一 委員

2) 日時：令和 6 年 10 月 17 日（木）
場所：高知工科大学
参加：14 名
内容：
①講義「日本技術士会四国本部の活動紹介」
講師：横山 成郎 委員
②講義「技術士及び技術士制度について」
講師：松本 直 委員

3) 日時：令和 7 年 1 月 29 日（水）
場所：香川大学
内容：技術士制度説明及び懇談会

(4) 修習技術者発表年次大会全国大会

日時：令和 6 年 11 月 9 日（土）13:15～17:25
四国本部選出 芝泰雅氏 優秀賞受賞
（(株)富士建設コンサルタント所属）

4. おわりに

修習技術者支援委員会では、引き続き修習技術者（第一次試験合格者、JABEE 認定課程修了者）を対象に、技術士としてふさわしい能力の獲得と資質の形成を支援する活動を実施していきます。

令和 7 年度は委員会の構成が大きく変わりますが、今後の修習技術者支援委員会の活動に引き続きご協力ご支援の程よろしくお願い致します。

防災委員会報告

四国本部防災委員会

委員長 木村 一成

KIMURA Kazunari



1. はじめに

2024年1月1日に発生した能登半島地震は復旧作業がなかなか進まず、半島部での大規模災害における対応の難しさを露呈しました。さらに、復旧作業が進行中の9月には輪島市を中心に豪雨災害が発生し、避難所の被災などの大きな被害が発生し、「複合災害への備え」という新たな問題が突き付けられました。

四国では、2024年4月17日に豊後水道を震源とするM6.6の地震が発生し、愛媛県愛南町、高知県宿毛市で震度6弱を観測しました。これは1996年に現在の震度階級が採用されてからは四国で最も大きな地震でした。また、8月8日に日向灘で発生したM7.1の地震の震源が南海トラフの想定震源域内に位置しており、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられたため、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されました。その後、大地震は発生することなく、この情報は1週間後の8月15日に解除されましたが、普段からの防災への意識づけが重要であることを再確認させられました。

災害はいつ発生するかわからないからこそ、日常的な防災意識の向上が大切です。私たち防災委員会では、四国内での防災講演会や見学会などの防災活動に加えて、防災支援委員会や他地域本部からの情報収集に基づく防災情報の共有などの防災活動を展開しています。

ここでは、2024年度(令和6年度)の四国本部防災委員会の活動について報告します。

2. 2024年度の活動報告

(1) 防災委員会の開催(WEB)

2024年度の防災委員会は24名の委員で構成されており、委員会はWEB開催で2回実施しました。

委員会での打合せ内容としては、四国内での行

事である各県での防災講演会や見学会の準備状況などの確認、一般の方々を対象とした防災イベントへの参加計画の確認を行いました。また、防災支援委員会(統括本部)主催のイベント紹介、全国防災連絡会議、技術士全国大会の予定確認、他地域本部活動状況などの報告などを行いました。

(2) 防災見学会・意見交換会(愛媛)の開催

(2024年11月16日(土))

2024年度の防災見学会では、愛媛県新居浜市に令和2年4月にオープンした新居浜市防災センターで防災体験と庁舎見学を実施し、愛媛大学の芝准教授による防災講演会を開催しました。

新居浜市防災センターは、最新のシステムを利用して地震や火災時の消火や避難などを体験できる施設で、市民の防災意識を高めるために、申し込みをすれば無料で利用できます。この防災センターは、総合防災拠点施設として整備が進められた新居浜市消防防災合同庁舎の中に設置されています。この庁舎には防災センターのほかに、消防本部と上下水道課、防災安全課が配置されており、災害時に関連する部署を集めることで情報共有がしやすくなり、災害発生時に対策拠点として運用できるように考えられています。



写真-1 防災センターの概要説明

今回の見学会では、最初に防災センターで防災体験を行い、その後、消防防災合同庁舎の施設や設備を見学しました。施設見学では、一般見学では入れない場所にも案内していただきました。



写真-2 消火体験の様子



写真-3 地下の耐震設備

施設見学の後は、市民文化センターに移動し、愛媛大学大学院地域レジリエンス学環の芝准教授による「能登災害から考える南海トラフ大地震への備え」と題した防災講演をしていただきました。芝准教授は能登半島地震の被災現場に何度も足を運んだ経験を踏まえた、南海トラフ地震が発生した際の対応についての問題提起や現在松山市で取り組んでいる「全世代型防災リーダー育成プログラム」について説明していただきました。

講演のまとめでお話いただいた、南海トラフ大地震が発生した場合、四国への支援は後回しになる可能性が高いため、自分・家族・身近な人を守る

準備をして、生き延びなければならない、という言葉は能登半島地震を経験した今、非常に現実的であると考えさせられました。

(3)防災講演会の開催

各県で5～6月、11～翌1月のCPDセミナー・公開講座の開催に合わせて、以下の防災講演会を開催しました。2024年度は香川、徳島、愛媛の各県で2回、高知で1回、計7回実施しました。

1)徳島会場(2024年5月18日(土))

演題：『災害がもたらす心理的反応と対応時の注意点』

講師：徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授
内海 千種

2)愛媛会場(2024年6月1日(土))

演題：『愛媛大学防災情報研究センターの最近の活動と今後の展開』

講師：愛媛大学社会共創学部教授・防災情報研究センター長 バンダネリ・ネトラ・プラカシュ

3)香川会場(2023年6月18日(火))

演題：『道路標識会社が進める事業継続計画(BCP)』

講師：(株)コート生産部部長 藤井 和也

4)高知会場(2024年11月8日(金))

演題：『南海トラフと西南日本の地震活動を振り返る ～地域防災での技術士の皆様への期待～』

講師：高知県立大学名誉教授 大村 誠

5)愛媛会場(2024年12月7日(土))

演題：『過去の大規模災害に学ぶ ～愛媛の地震・津波・水害・土砂災害史～』

講師：愛媛大学地域協働推進機構特定准教授
大元 敬久

6)香川会場(2024年12月13日(土))

演題：『東かがわ市大池の湖底堆積物調査による津波履歴の研究』

講師：香川大学創造工学部教授・香川大学博物館館長 寺林 優

7)徳島会場(2025 年 1 月 18 日(土))

演題：『四国防災八十八話マップからみる徳島の災害伝承 ～東日本大震災と能登半島地震を踏まえて～』

講師：徳島大学環境防災研究センター助教

松重 摩耶

(4)防災イベントへの参加(高知)

2024 年 5 月 26 日(日)

令和 6 年度には、かねてより希望していた防災イベントへのブース出展が実現しました。

高知県香南市で開催された、「令和 6 年度高知県総合防災訓練・地域防災フェスティバル（防災フェスタ in 香南 2024）」に防災委員会として初めてブースを出展しました。

このイベントは高知県主催の高知県総合防災訓練に併せて開催される地域防災フェスティバルで、一般住民が参加でき、地域での防災意識の高揚が目的とされています。



写真-4 ブースの外観

今回の展示内容は、以下の通りです。

- ① 技術士の紹介パネル
- ② ハザードマップ・災害事例紹介コーナー
- ③ 南海トラフ立体視ポスター
- ④ 液状化の簡易模型実験コーナー
- ⑤ 各種パンフレット・ノベルティグッズ配布

イベントの開催時間は 10 時～15 時の 5 時間で、ブースへの来訪者は約 140 人でした。

能登半島地震の影響もあったかもしれませんが、来訪者の防災意識は高く、高校生や小さいお子さん連れのご家族など若い世代の訪問が多かったの

が特徴的でした。多くの方にブースを来訪していただき、展示者側としてもやりがいを感じることができました。



写真-5 液状化の簡易模型実験コーナー



写真-6 南海トラフ立体視ポスター

(5)防災支援委員会との連携

1)防災支援委員会への参加

令和 6 年度も例年通り、対面会議（東京）と WEB 参加を併用した委員会が実施されました。開催頻度は毎月 1 回で参加者は統括本部、各地域本部の防災委員長、技術士各部門の代表者やオブザーバーから構成されています。委員会には毎回 30 名程度のメンバーが参加しています。防災イベント等への参加にあたっては、開催地域在住の委員を中心に活動していますが、定期的な情報交換、意見交換の場として活用されています。

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震への事後対応として、士業連携で開催している相談会などに技術士会メンバーが参画していることなどが報告されています。

2)全国防災連絡会議への参加(WEB)

2024年9月2日(月)、第20回全国防災連絡会議が開催されました。今回のテーマは「大規模災害発生後における技術士会の活動と連携」でした。

前半では、田村委員長による防災支援委員会の2023年度の活動報告と2024年度の活動計画の説明に続き、各地域本部の委員長と関東甲信県支部防災連絡会議より活動報告がなされ、その後田村委員長より能登半島地震発生後における統括本部の活動について説明がありました。

後半では、今回の会議テーマに沿って北陸本部防災委員長の市村委員長から、「SAPD試行による令和6年能登半島地震災害対応」と題して、能登半島地震後の災害対応における貴重な体験をお話いただきました。

WEB開催ではありますが、四国からの参加者は少ない状況です。四国からも多くの技術士が参加してもらえよう周知をしていきたいと思っています。

3)関東甲信県支部防災連絡会議への参加(WEB)

関東甲信県支部(茨城県支部、神奈川県支部、群馬県支部、埼玉県支部、千葉県支部、栃木県支部、長野県支部)では、将来的な広域災害への備えとして県単位の枠を超えた広域防災対応の組織形態を構築するべく、2021年から関東甲信県支部防災連絡会議が開催されています。この会議に防災支援委員会委員もオブザーバー参加しています。

2024年8月1日に第8回会議が開催されました。

第8回会議では、田村防災支援委員長からの防災支援委員会の活動報告に続いて、関東甲信県支部から全国防災連絡会議へ参加する際の代表者ならびに毎月開催される防災支援委員会へのオブザーバー参加者の選定が行われました。その後、各県支部の活動報告が行われました。

関東甲信県支部では活動の程度や内容は様々ですが各県ごとにそれぞれに独自の活動を行っており、特色ある防災活動を展開しています。

4)防災・減災連絡会への参加(WEB)

2025年1月9日に第3回防災・減災連絡会がWEB方式で開催されました。

この会議では、報告事項として、防災支援委員会における災害時支援活動計画(SAPD)の取り組み説明があり、その後議事として、各地域本部における大規模災害発生時対応、各地域本部のSAPDの検討状況についての意見交換が行われました。

四国本部防災委員会ではSAPDを運用していますが、緊急時連絡体制の補強など新たな対応を進めていく必要があると考えています。

3. 2025年度の活動について

四国本部防災委員会では、南海トラフ巨大地震のような広域大規模災害だけではなく、毎年のように起こる豪雨災害、水害、土砂災害など多様な災害に対して適切な対応をとれるように情報収集などの準備を進めています。

まずは、これまでのように一般市民も参加可能な防災・減災に関する講演会や見学会などの開催を継続していきます。また、技術士会のメリットである多様な専門性を持つ人材集団であることを生かして、部門を超えた技術士間、地域本部間での情報交換や他士業との連携などの多分野とのネットワーク形成など、広域的な大規模災害発生時に役立つ関係性の構築を進めていく必要があると考えています。

2024年度に引き続き、今年度も高知県の防災フェスタに参加することができました。今後は、他県でも防災イベントに参加できるよう、準備を進めていきたいと考えています。

今年度の防災見学会は香川県で実施します。今の予定では、秋ごろに地元の自主防災組織との意見交換を含めた見学会を開催する予定です。

その他にも、市民団体や自主防災組織との防災まちあるきの実施など、技術士の専門性を一般の方に共有し、技術士の知名度向上につながるような防災活動を進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、技術士会の皆様には日頃から防災活動にご協力いただき感謝申し上げます。今後とも防災委員会の活動にご支援のほど、よろしくお願いいたします。

試験業務支援委員会報告

試験業務支援委員会

委員長 三木 公司

MIKI Koji



1. 令和6年度技術士試験の実施概要

技術士試験は、平成14年度から第一次試験・第二次試験とも四国会場（高松）で開催されています。近年は受験者数や会場事情により複数会場が設けられており、令和6年度は第一次・第二次試験ともに延べ3会場で実施しました。

令和6年度の技術士試験の実施概要は以下のとおりです。



写真-1 技術士試験四国会場(第二次試験:英明高校)

(1) 技術士第二次試験の実施概要

令和6年度技術士第二次試験は、4月1日より受験申込書の受付を開始し、試験を7月14日(日)7月15日(月)に実施しました。

四国会場における技術士第二次試験の受験者数は、新型コロナ感染ピークであった令和2年度の減少から回復後、概ね横ばい傾向が続いており、令和6年度は833人となりました。

最近の技術士第二次試験の受験者数の実績を、全国と四国会場を比較して表-1.1に示します。

表-1.1 技術士第二次試験受験者数(実績)

年 度	全 国 (人)	四国会場 (人)
令和6年度	23,043	833
令和5年度	22,877	819
令和4年度	22,489	844

第二次試験の筆記試験合格者発表は10月29日に行われ、合格者に対して口頭試験が11月末～令和7年1月中旬の間に東京都で行われました。口頭試験の合格発表は令和7年3月14日に行われ、四国会場受験者は77名が合格し、合格率は9.2%と、いずれも前年より減少しました。

(2) 技術士第一次試験の実施概要

令和6年度技術士第一次試験は、6月12日より受験申込の受付を開始し、試験を11月24日(日)に実施しました。

四国会場における技術士第一次試験の受験者数は、第二次試験と同様、新型コロナ影響の緩和後は概ね横ばい傾向にあり、令和6年度は688人となりました。

最近の技術士第一次試験の受験者数の実績（全国および四国会場）を表-1.2に示します。

表-1.2 技術士第一次試験受験者数(実績)

年 度	全 国 (人)	四国会場 (人)
令和6年度	16,666	688
令和5年度	16,631	684
令和4年度	17,225	704

第一次試験の合格発表は、令和7年2月25日に行われ、四国会場受験者は合格者が234名、合格率は34.0%となっており、いずれも前年より若干減少しました。

2. 令和6年度の試験業務支援委員会の活動実績

試験業務支援委員会は、技術士試験業務への協力・支援および技術士試験制度の普及を図ることを主な目的として活動を行いました。

(1) 技術士試験業務への協力・支援活動

令和6年度の技術士第二次・第一次試験は、いずれも近年実績よりも多い3箇所の会場（第二次試験：香川大学本学、英明高校、サン・イレブン高松、第一次試験：サン・イレブン高松、四電総合研修所、瀬戸内観光専門職短大）で行いました。

各試験とも会場数増加に応じた労力が必要となりましたが、四国本部内での経験者による運営体制構築や技術士試験センターとの緊密な情報連携を行った結果、試験当日は混乱やトラブルはなく、計画どおりに試験を実施することができました。なお、試験実施後には、受験者の交通の便や円滑な業務運営に適した試験会場の選定、技術士試験センターからの計画的な関係情報連携等について改善要望を提出しました。

(2) 技術士試験制度の普及・啓発活動

教育機関等への技術士試験制度の普及・啓発活動については、修習技術者支援委員会・青年技術士交流委員会等と連携をとりながら実施しており、令和6年度も、各委員会主催行事への共同参加、各委員による地元大学・高専への出張授業等を行いました。こうした活動の中では、学生や若手、女性技術者、中小企業従業員など、多様な社会的立場や受験環境ごとの支援要望の理解、建設以外の比較的マイナーな技術部門に関する情報支援など、幅広い意見が得られています。

このほか、当会作成のパンフレットを活用し、機会をとらえ管内の官公庁や大学を訪問して技術士制度・試験情報の説明を行い、普及・啓発活動に努めました。

3. 今後の試験業務支援委員会の活動展望

試験運営については、外部専門機関の協力を継続して得られており直営業務量が概ね安定して推移していること、また委員会内外で学生や若手技術者からの技術士や試験制度への関心が寄せられていることから、今後も試験業務の確実な運営を基本としながら、余力をもって技術士および試験制度の普及・啓発活動を担っていきます。

具体的にはこれまで同様、四国管内で自治体、大学、地域住民向けに諸活動を展開している

- ・修習技術者支援委員会
- ・青年技術士交流委員会
- ・男女共同参画推進小委員会

のメンバーとの連携を維持強化しながら、各委員会の活動イベントに共同参加して技術士取得の意義・メリットと試験制度について発信し、技術士の認知度と受験者数の増加に取り組みます。

4. 試験業務支援委員会メンバー等

令和6年度の試験業務支援委員会のメンバーは、以下の9名です。

- | | | | |
|------|------|----|-------|
| 委員長 | ；三木 | 公司 | （香川県） |
| 副委員長 | ；渡辺 | 裕之 | （香川県） |
| 委員 | ；亀田 | 進 | （香川県） |
| 委員 | ；北山 | 和宏 | （香川県） |
| 委員 | ；工藤 | 宏樹 | （徳島県） |
| 委員 | ；河端 | 悟司 | （愛媛県） |
| 委員 | ；國土 | 新彦 | （高知県） |
| 委員 | ；曾我部 | 敏彦 | （高知県） |
| 委員 | ；水野 | 隆之 | （高知県） |

引き続き、社会貢献の思いと経験豊かな委員の協力により、確実な試験業務運営と技術士・試験制度の普及活動を進めてまいります。また、各県委員による活動から得られた情報を関係委員会にも提供するなど、四国本部全体の活性化にも貢献したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

青年技術士交流委員会報告

青年技術士交流委員会

委員 白鳥 実

SIRATORI Minoru



1. はじめに

この会誌が発刊される頃には、私は6年間の委員長のお勤めを終え、次の世代にバトンを渡しているはずですが、令和6年度の活動を報告する前に、まず、青年技術士交流委員会（以下、青技交）と一緒に活動した仲間、交流会を通じて知り合えた方々、他地域本部で活動する青年委員の方々に感謝します。皆さんとの出会いは、私の人生の中でも最も大切な宝の一つであり、今の私があるのも、皆さんとの共創の中での学びや刺激があつてこそと思っています。本当にありがとうございました。そしてこれからも、私の成長のために末永くお付き合い下さい。

と言うことで、今回の活動報告は、委員長として最後の役割になりました。そう思うと非常に感慨深いところではありますが、以降は冷静に報告させていただきます。

さて、青技交では、四国本部の若手技術者が中心となり、以下の目的と方針に沿って活動している。本稿では、令和6年度に実施した活動内容について報告する。

活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、委員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすために活動を行う。

活動方針

- 方針1: 青年技術士としての幅広い能力向上
- 方針2: 四国地域の青年技術士相互の交流
- 方針3: 地域との交流を通じた社会貢献

2. 交流会活動

技術士としての幅広い能力向上、青年技術士相互の交流を目的として、四国4県で各1回、計4回の交流会の企画・運営を行った。

2.1 第38回青年技術士交流会（香川）

実施日：令和6年7月13日（土）

場 所：㈱四電技術コンサルタント 本社 会議室

テーマ：『参加したくなる青年技術士交流会のキャッチコピーを作ろう』

内 容：鉄は熱いうちに叩けと言うことで、技術士第二次試験合格者に対して青技交の活動を紹介するため、4月に交流会を開催した。そして、新合格者に青技交の活動に興味を持ってもらい、一緒に活動する委員になってもらうことを狙ったテーマを企画した。やはり、自分事化は大切であり、どうすれば委員会活動に参画できるかを参加者自ら考えてもらう内容とした。その結果、面白いキャッチコピーが誕生した。『青二才だからオモロイ』。これからの青技交の活動では、このキャッチコピーを忘れずにテーマや内容を設定したい。

なお、本交流会には新合格者が2名参加し、その後の懇親会に参加した1名が青技交に加わっている。打率5割は、かなり評価できる結果ではなかろうか。



写真-1 交流会での発表の様子

2.2 第39回青年技術士交流会（愛媛）

実施日：令和6年7月20日（土）

場 所：愛媛県宇和島市津島町岩松

テーマ：『NASSO で町づくり』

講 師：企業組合いわまつ 代表 兵頭 肇 氏

内 容：人口減少と高齢化が進む中、地元を活性化するために活動されている方の想いや考えを学ぶ内容とした。講演者の兵頭さんは、生まれ育った地域を思うシビックプライドを持つ方で、何より活動理由を面白いからと言い切れるバイタリティーあふれる方であった。地元の方言である「なっそ（なんで？の意味）」をもとにネーミングしたどぶろく「NASSO」に情熱を注がれており、地元で育てた米を原料に、街に残る明治期に建てられた酒造場を利用してどぶろくや甘酒を造られていた。講演後に、岩松地区の街並みを見学するとともに、どぶろく NASSO や甘酒の試飲もさせていただいた。恥ずかしながら、どぶろくと甘酒の違いを知らなかった私だが、両方とも美味しくいただいた（翌日にちゃんと購入してから帰った）。

ちなみに、NASSO を逆からローマ字読みすると、「OSSAN＝おっさん」。おっさんたちが面白おかしく変な活動が続ける。地域活性化の指標として、経済的効果も大事だが、活動する地元の方々のエンゲージメント（もしくは熱量）が最も大事だと改めて感じる交流会であった。



写真-2 どぶろく NASSO を紹介する兵頭さん

2.3 第40回青年技術士交流会（高知）

実施日：令和6年8月24日（土）

場 所：高知県吾川郡仁淀川町下名野川

テーマ：『初心に返って技術を学ぼう！』

講 師：hitsuzan design 橋本 洋和 氏

内 容：本イベントは夏休み中に開催することもあり、子供も参加できる企画とした。まず、hitsuzan design の橋本氏から工作やDIYの楽しさについてご講演いただき、その後、砂遊びを実施した。砂遊びといっても、建設分野のメンバーの多い青技交ならではの企画であり、①砂だけで山を作った場合、②水も混ぜた場合、③ネットや割りばし等の材料で補強した場合、といったように土質力学を体感できる内容とした。

子供も楽しんでいましたが、大人もかなり本気になり、私自身も童心に帰って楽しんだ。今後も、子供たちも参加できる企画を続けていこうと考えている。



写真-3 砂山を作る参加者の様子(上)と優勝チームの盛土作品(下)

2.4 第41回青年技術士交流会（徳島）

実施日：令和6年11月23日（土）

場 所：徳島県鳴門市 渦の道

テーマ：『大鳴門橋遊歩道・大鳴門橋架橋記念館を体験しよう！』

講 師：徳島県立渦の道・大鳴門橋架橋記念館 館 長 近藤 敬大 氏

内 容：本イベントも子供参加可能な内容とした。まずは楽しむことからスタートし、渦の道を見学した。ここでは、地元のボランティアスタッフによる説明もあり、渦のメカニズムや鳴門海峡大橋の構造について詳しい話を聞くことができた。

その後、大鳴門橋架橋記念館エディを見学し、最後に、近藤氏に渦の道の維持管理や今後の構想についてご講演いただいた。先に見学で歩いたため、眠たくなった子もいた一方、子連れだった大人たちは講演に集中することができた。



写真-4 鳴門公園での集合写真(上)と渦の道にて
徳島・兵庫の県境での写真(下)

3. 他地域本部との交流活動

四国本部内の活動だけでなく、他地域本部との交流も積極的に実施した。私としては、他地域本部からの要請に対して「断らない」を信条にしており、その結果、資料作成等の労力を要したものの、多くのことを学び、様々な方と出会い、貴重な経験ができた。ひとつひとつ詳細に説明すると、紙面が足りなくなるため、その幾つかについて、写真で報告する。



写真-5 神戸港に停泊する液体水素運搬船を背景にした
近畿・中国・四国の交流写真
(令和6年5月26日)



写真-6 中国本部青技交の20周年記念イベントでの
ライブ演奏(令和6年9月7日)



写真-7 技術士全国大会(札幌)での懇親会の様子
(令和6年10月5日)

4. 地域との交流を通じた社会貢献活動

4.1 高知県大川村の方々との交流

実施日：令和5年11月26日（日）

内 容：四国の水瓶である早明浦ダムの水源地域である高知県大川村は、人口が約360人の自治体である。四国本部の青年委員の多くが建設部門ということもあり、ダムの恩恵を受ける地域と水源地域との交流があるべきと考え、令和4年度から交流活動を実施している。令和6年度も引き続き、大川村の地域活性化に尽力されている方々と交流し、地域課題を伺うとともに、技術士として課題解決に協力させていただいた。

令和6年度の特筆すべき内容は、毎年春に大川村で開催されるさくら祭り会場の展望デッキの修復である。老朽化したデッキの撤去から新デッキの資材運搬、組立時には測量技術で貢献するとともに、耐荷重を概算しアドバイスを行った。現在も引き続き大川村のイベントに積極的に参加しており、委員の家族を巻き込みながら、交流を深めているところである。



写真-8 展望デッキの解体・撤去、新デッキ完成までの様子

4.2 かがわけん科学体験フェスティバル

実施日：令和6年11月10日（日）

場 所：香川大学幸町キャンパス体育館

内 容：『ふしぎ？テンセグリティをつくろう！』をテーマに、四国本部の男女共同参

画推進小委員会との合同で出展した。本テーマでの出展は3年連続となっており、そろそろ内容を変えたいと模索中である。

とは言え、経験を重ねると、フェスティバルでの参加者への対応もスムーズになり、約400名の子どもたちに対応できた。また、ブースに来場してくれた子供たちには、もちろん技術士ノートを配布し、その保護者を含む方々に「技術士」をアピールした。この活動によって技術士の知名度向上、将来に技術士を目指す人材創出に繋がれば幸いである。



写真-9 フェスティバル実施時の様子(上)と参加者に配布した技術士ノート(下)

5. おわりに

令和7年度の年次大会を機に、青技交の若返りを図るため、メンバーを一新しました。これからの青技交も、若手が自由に楽しく成長できる場であって欲しいと願っています。私自身も委員の一人として、楽しみながら成長したいと思います。最後になりましたが、今後とも、青技交に対する皆様の温かいご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

倫理小員会報告

四国本部倫理小委員会

委員 藤本 憲洋

FUJIMOTO norihiro



1. はじめに

倫理小委員会は、四国本部会員及び非会員・技術系学生を含めた技術者を対象に、「技術者倫理」を広く啓発することを目的として、技術者倫理セミナー開催及び技術系大学・高等専門学校への講師派遣等の活動を行っています。本委員会は、四国各県から選出された委員で、以下の 11 名で構成されています。(令和 7 年 5 月 20 日時点)

【委員会構成】(敬称略、順不同)

委員長	横山 成郎	(高知県)
副委員長	丸山 正	(香川県)
委員	金澤 隆	(徳島県)
	佐藤 悦史	(徳島県)
	森田 朗	(徳島県)
	池谷 聖	(香川県)
	友近 榮治	(愛媛県)
	東 豊一	(愛媛県)
	藤本 憲洋	(愛媛県)
	中根 久幸	(高知県)
	松本 直	(高知県)

2. 令和 6 年度活動方針並びに主な活動内容

令和 6 年度は、以下のとおりです。

(1) 技術者倫理の啓発活動

- ① CPD セミナー・公開講座に合わせて技術者倫理セミナーを年 1 回開催し、技術者倫理の啓発を行います。
- ② CPD セミナーや各県技術士会から技術者倫理に関する講演依頼があった場合に、講師派遣等の協力を行います。

(2) 大学及び高専の技術者倫理教育への講師派遣

- ① 四国の大学及び高専から依頼があった場合に、講師を派遣します。

(3) 技術者倫理の既往文献調査及び研究

- ① 技術者倫理に関する既往文献を紹介し、倫

理観を共有します。

- ② 統括本部並びに他の地域本部とのネットワークづくりを行います。
- ③ 勉強会の一環として、技術者倫理研究会例会に参加し、技術者倫理に関する継続研鑽を図ります。

3. 令和 6 年度活動報告

(1) 倫理小委員会

1) 第 15 回倫理小員会

日時：令和 6 年 7 月 24 日(水)18:00～19:00

場所：Web 会議

出席者：9 名

内容：令和 6 年度事業計画、大学における「技術者の倫理」講義中間報告、他

2) 第 16 回倫理小員会

日時：令和 7 年 2 月 18 日(火)19:30～20:30

場所：Web 会議

出席者：7 名

内容：大学における「技術者の倫理」講義報告と次年度予定、技術者倫理情報連絡会と全国大会第 1 分科会の報告、他

(2) 大学における倫理講義

日時：令和 6 年 7 月 2 日(火)～7 月 30 日(火)

週 1 回全 5 回(16:20～17:50)

場所：愛媛県松山市 愛媛大学農学部

参加者：2 学年(191 名)

内容：「技術者の初歩：技術者の倫理」

講師：倫理小委員会委員長 横山 成郎氏

第 1 回 技術者と倫理

第 2 回 コンプライアンス

第 3 回 予防倫理

第 4 回 技術者倫理問題

第 5 回 内部告発と公益通報者保護法

(3)第 10 回技術者倫理セミナー (修習と合同実施)

日時：令和 7 年 3 月 29 日(土)

場所：松山市男女共同参画推進センター(COMS)

参加者：19 名

内容：技術者倫理綱領の改定について、技術者倫理グループワーク

講師：倫理小委員会委員長 横山 成郎氏



各グループの発表

(4)技術者倫理研究会例会参加

1)第 111 回例会

日時：令和 6 年 5 月 14 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 4 名 Web 参加

話題：金属部会企業内技術士勉強会と技術者倫理

講師：田中 和明氏 (金属部門)

2)第 112 回例会

日時：令和 6 年 7 月 9 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 3 名 Web 参加

話題：レジリエンスエンジニアリングの紹介

講師：貴志 公博氏 (航空・宇宙部門、機械部門、総合技術監理部門)

3)第 113 回例会

日時：令和 6 年 9 月 10 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 2 名 Web 参加

話題：倫理を含めた持続可能な事業目標について

講師：末岡 眞純氏 (建設部門、総合技術監理部門)

4)第 114 回例会 (第 4 回中国本部倫理委員会講演会として開催)

日時：令和 6 年 11 月 2 日(土)13:00～17:00

参加者：倫理小委員会より 1 名会場参加

講演 1：ウクライナにおける戦争～経済と技術

が引き起こす「東西」対立と世界平和を考える

講師 1：友次 晋介氏 技術士 (大阪経済大学 国際共創学部准教授)

講演 2：「動物の権利訴訟」から考える環境倫理

講師 2：井内 祥人氏 技術士 (森林部門)

5)第 115 回例会

日時：令和 7 年 1 月 21 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 2 名 Web 参加

話題：幸福な技術者を目指した技術者倫理の実践

講師：袴谷 達氏 (電気電子／上下水道／総合技術監理部門)

6)第 116 回例会

日時：令和 7 年 3 月 11 日(火)18:30～20:30

参加者：倫理小委員会より 2 名 Web 参加

話題：プロトタイプ 技術者倫理の学びカタ

講師：川本 明人氏 技術士 (金属部門)

(5)技術者倫理情報連絡会参加

日時：令和 6 年 10 月 4 日(金)

場所：第 50 回技術士全国大会(札幌・北海道)の関連行事として開催

出席者：倫理小委員会より 3 名出席

内容：総括本部倫理委員会活動報告・北海道本部活動紹介、技術者倫理情報交換会 (各地域本部から提案テーマに関する意見交換)

4. おわりに

技術者倫理小委員会では、令和 6 年度末の委員会構成人数が 9 名と少なく、委員会単独での事業の開催は難しいため、技術者倫理セミナーを修習技術者支援委員会との共催で行ったり、Web を活用し全国規模で行われている技術者倫理研究会例会に参加したりすることで、技術者倫理に関する継続研鑽や技術者倫理の啓発活動を行っています。

当委員会では、こうした活動を通じて技術者倫理の知識を深め、啓発活動を進めることで皆様のお役に立ちたい所存です。今後とも、倫理小委員会の活動に対して、ご協力・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

高知県支部活動報告

四国本部 高知県支部

事務局長 松本洋一

MATSUMOTO Yoichi



高知県支部は、令和6年6月21日に支部設立5周年記念講演（公開講座）を開催しました。講師に安藤和津さんをお迎えして、会員やご家族、技術士を目指す若手技術者、一般聴講者など多数の参加をいただきました。講演会のほか、以下のよう

1.（公社）日本技術士会四国本部との共催事業

(1) 第96回 CPD セミナー・

記念講演(公開講座)

- ・ 開催日時 令和6年6月21日(金)
- ・ 参加者 120名（うち Web 参加者1名、新規合格者6名）
- ・ 講師
CPD セミナー：黒川 修吾氏
記念講演(公開講座)：安藤 和津氏

(2) 令和5年度技術士第二次試験合格者祝賀会（高知会場）

- ・ 開催日時 令和6年6月21日(金)
- ・ 参加者 58名

(3) 第40回青年技術士交流会

- ・ 開催日時 令和6年8月24日(土)
- ・ 参加者 15名

(4) 四国なでしこ技術サロン（土佐 vol.1）

- ・ 開催日時 令和6年10月19日(土)
- ・ 一般参加者 16名 男女共同参画推進小委員会メンバー17名 一般参加者およびメンバーの子供 6名

(5) 第97回 CPD セミナー・公開講座（高知例会）・防災セミナー・第55回修習技術者支援セミナー

- ・ 開催日時 令和6年11月8日(金)
- ・ 参加者 80名（うち WEB 参加4名）
- ・ 講師
CPD セミナー：豊後 彰彦氏
公開講座：熊谷 靖彦氏
防災セミナー：大村 誠氏
修習技術者支援セミナー：佐川徳和氏、片山直道氏

(6) 懇親会

- ・ 開催日時 令和6年11月8日(金)
- ・ 参加者 51名

(7) 令和6年度 四国本部高知例会見学会

- ・ 開催日時 令和6年11月9日(土)
- ・ 開催場所 牧野植物園 参加者 5名



写真-1 支部長挨拶と支部設立5周年の歩みを紹介



写真-2 安藤和津さんを囲んで記念撮影



写真-3 牧野植物園にて(高知例会見学会)



写真-4 日本海・瀬戸内海・太平洋縦断技術士会

2. 高知県支部の独自事業

(1) 高知県支部年次大会

- ・ 開催日時 令和6年6月21日(金)
- ・ 参加者 51名

(2) 日本海・瀬戸内海・太平洋縦断5県技術士交流会(島根)

- ・ 開催日時 令和6年11月9日(土)
- ・ 参加者 42名(支部からの参加者3名)
- ・ 発表者: 下村昭司

(3) (公社)日本技術士会四国本部高知県支部会報「PEこうち」の配布

- ・ 第4号、令和6年6月発行、6月配付、部数: 500部(官公庁及び会員)

(4) 高知県支部ホームページの運用

- ・ 活動計画、活動報告等の情報公発信
<https://www.ipej-shikoku-kochi.org/>

(5) 役員会の開催

- ・ 対面(Web併用)で5回の幹事会を開催

(6) 第24回高知県建設技術研究発表会

- ・ 審査員の推薦
- ・ 開催日時 令和7年1月24日(金)
- ・ 審査員: 小川修 副支部長

令和6年度は、支部設立5周年記念講演などを通じて、あらためて技術士の知名度向上に努めることの重要性を実感しました。安藤和津さんからは、「生活に身近な社会インフラ整備に関わる技術者の団体として、その存在意義をもっと世の中にアピールできるのではないか、そうすべき」との力強いアドバイスをいただきました。5周年記念講演会に関する広報などの取組が、「技術士地位向上の好事例」として統括本部から全国に発信されたことは今後の励みとなりました。

高知県支部が主催・共催するセミナーは、会員だけでなく多様な参加者の交流の場でありたいと考えています。セミナーの内容充実や効果的な広報のあり方について、今後も役員はじめ会員各位にお力添えいただければ幸いです。

新規技術士合格者をはじめとした若手技術士の会員数も増加傾向です。これもひとえに、これまでの活動をご支援いただいた関係機関の皆様や先輩技術士のご指導とご鞭撻の賜物であると心より感謝を申し上げます。

この流れを確かなものとして支部の活動基盤を固め、高知県における産業発展や防災などの課題解決に技術的側面から貢献していきたいと考えています。

徳島県技術士会だより

徳島県技術士会
事務局長 神田 幸正
KANDA Yukimasa



1. はじめに

徳島県技術士会は、昭和 42 年 8 月に会員数 12 名で発足し、(2025 年の)今年 58 年を迎えました。

現在では、15 部門にわたる 193 名 (2025 年 5 月 21 日時点) の会員を擁し、広報、修習技術者支援、出前講座、ホームページ、事業の 5 つの常設委員会ならびに、商工、建設、女性、青年の 4 つの部会から組織され、各委員会及び部会が「技術士」の知名度向上に資する活動を精力的に行っております。以下、2024 年度の徳島県技術士会の主な活動を報告します。

2. 2024 年度(令和 6 年度)の主な活動

(1) 定期総会

令和 6 年 5 月 18 日(土)に、2024 年度の定期総会を開催しました。コロナ禍も収束しましたので対面参加形式で実施しました。

定期総会出席者は、対面参加 42 名、委任状提出者が 51 名で、合計 93 名の参加となりました。



写真-1 定期総会の状況

(2) 広報委員会：会報誌の発刊

徳島県技術士会の会報誌は、1993 年度から創刊

しており、2024 年度は 13 名の会員の執筆により VOL. 32 (2025 年 1 月 1 日) を発刊しました。今年も 536 部を製本し、大学、高専、企業、官公庁などにも配布し、弊会の活動状況を紹介しました。

(3) 修習技術者支援委員会：支援講習会

2024 年度は、支援講習会を 4 回開催しました。内容は、出発(出願)セミナー(一般部門)、合格体験発表会、筆記試験対策セミナー、ならびに模擬口頭試験です。総受講者数：65 名、総支援スタッフ：37 名、延べ 98 名の参加となりました。

セミナー講師には、技術士受験支援サイト「SUKIYAKI 塾」の管理者であり、この道の先駆者として著名な鳥居直也氏を招聘しました。



写真-1 鳥居先生による説明を熱心に聞く受講者



写真-2 模擬口頭試験の様子

(4)出前講座委員会：阿南高専出前講座

阿南高専出前講座は、阿南工業高等専門学校で2010年度から実施しており2024年度で14年目を迎え、これまでに27回の講座を実施してきました。

令和6年6月24日(月)に、創造技術工学科建設コースの4年生19名を、令和6年7月10日(水)に3年生18名を対象としてグループワーク形式による講座を開催しました。

3年生には、『建設業界の仕組み、技術士の役割と必要性を理解し、建設業界の職種、自分の進路について考えてみよう。』を、4年生には、『技術士に日常の仕事内容や立場を実際に聞いてみて、自分の進路やインターンシップで学ぶことを考えてみよう。』をテーマとして、会員延べ32名で実施しました。



写真-3 グループワークの状況



写真-4 学生の発表の状況

(5)ホームページ委員会：トップページの更新

ホームページのトップページは3ヶ月の頻度で定期的に更新し、各部門の技術士が交代で、その部門に関する内容を掲載しています。

表-1 徳島県技術士会ホームページのトップページ

掲載期間 (2024年度)	タイトル	部門 (専門)
4月～6月	【高丸山】徳島県上勝町と那賀町の境にある標高1438.8m	環境部門 (自然環境保全)
7月～12月	長周期波に伴う港内振動流対策施設のご紹介	建設部門 (港湾及び空港)
1月～3月	中土手の整備計画	建設部門 (道路)

(6)女性部会：四国なでしこ技術サロン

四国なでしこ技術サロンは、2015年度より開催している「阿波なでしこ技術サロン」を日本技術士会四国本部の男女共同参画推進小委員会との連携で、2021年度から「四国なでしこ技術サロン」となり開催しています。

令和6年10月19日(土)に、四国なでしこ技術サロン(土佐VOL.1)を、子ども6名を含む参加者39名で開催しました。徳島県技術士会からは、8名が参加しました。

(7)商工部会：農業遺産意見書の提出

徳島県南部で取り組まれている樺木林業の日本農業遺産への認定申請にあたり、令和6年6月12日付けでとくしま樺木林業協議会長から意見書の作成依頼がありました。

当会の技術士(森林分門)網田克明氏が所見を作成し、令和6年6月17日に菊池会長名で意見書を提出しました。

令和7年1月24日に、徳島県県南(けんなん)地域「みなみ阿波の樺木林業システムー照葉樹林に育まれた里山、里海の物語ー」が日本農業遺産に認定されました。

3. おわりに

徳島県技術士会は、今後も会員の品位と実力を高め、かつ会員相互の連絡協力を密にし、お互いの親睦を図り、後進を導き技術士業務の啓発、発展および県内技術の進展に寄与してまいりたいと考えております。ー以上ー

(補遺)：今年度(令和7年6月)より、徳島県技術士会事務局は、株式会社エフ設計コンサルタントからエスシー企画株式会社(佐藤悦史 事務局長)に移転しております。

香川県技術士会だより

香川県技術士会
事務局長 尾崎 重浩
OZAKI Shigehiro



1. はじめに

香川県技術士会は、220 名（令和 6 年度）の会員のもと、各種の講演会、見学会などの企画を通して、技術力の向上と相互交流、社会貢献に取り組み、地域社会の発展に寄与しています。

令和 6 年度の主な活動は以下の通りです。

2. 会員の技術力向上と相互交流活動

(1) 総会・講演会の実施

令和 6 年 6 月 13 日（木）に定例の総会、講演会を開催し、会員 76 名の出席を頂くとともに、懇親会（52 名出席）も盛大に開催しました。今回、役員の改選期（2 年毎）に当たり、4 年間務められた末澤会長から加藤会長にバトンが渡されるとともに、新副会長に安西、大原の両氏が、また私を含め 2 名の方が新しく役員となり、フレッシュな体制となりました。



写真-1 末澤会長の退任挨拶

講演会では、NIPPURA 株式会社代表取締役社長 敷山靖洋氏による「NIPPURA 的ものづくりの発想と歩み」と題した講演をいただきました。



写真-2 講演会（講師：敷山靖洋氏）

(2) 技術士第二次試験合格祝賀会

令和 5 年度合格者の祝賀会は、（公社）日本技術士会四国本部と共催で、令和 6 年 6 月 18 日（火）に開催しました。参加人数は 54 名で、4 名の合格者に参加いただきました。

(3) 見学会

令和 6 年 10 月 25 日（金）に、26 名の参加をいただき、以下の 2 か所を見学しました。

最初に、さかい利晶の杜（千利休茶の湯館、与謝野晶子記念館）で、中近世の商業都市堺の繁栄と魅力について学ぶことができました。次に、2025 年日本万国博覧会（大阪・関西万博）施設建設現場で、大屋根リングの西側に位置するグリーンワールド工区、西エントランス大屋根他を見学しました。世界最大の木造建築物「大屋根リング」の大きさと、海上へと続くロケーションの良さなど、『万博が始まったら必ず見に来よう』と思いながら会場を後にしました。（詳細は H P 参照）



写真-3 大阪・関西万博施設建設現場見学

(4) 他県技術士会との交流

平成 17 年度より鳥取・島根・岡山・香川・高知の 5 県が参加し、「太平洋・瀬戸内海・日本海縦断技術士会」として相互に交流しています。

令和 6 年度は、令和 6 年 11 月 9 日（土）に島根県出雲市を会場に、『技術士の力で地域の魅力を引

き出す』をテーマに、総勢 40 名が参加して開催されました。各県の技術士による研究・活動発表を行った後、出雲大社周辺の「神門通り」にて歴史と文化に配慮したまちづくりの事例を紹介するガイド付きツアーが行われました。

当会からは 4 名が参加し、西田圭志氏（㈱四電技術コンサルタント）より、「脱炭素で地域の魅力を引き出す」と題して発表いただきました。



写真－4 「神門通り」ガイドツアーの様子

3. 社会貢献への取組み

(1) 香川県との防災協定に関する活動

香川県と当会は、平成 18 年に「防災支援協定」を締結し、当会では、毎年「支援活動技術士」を県へ申請し登録しています（令和 6 年度は 73 名登録）。

また、毎年、香川県と合同で防災訓練を行っており（令和 2～4 年度はコロナ禍のため中止）、令和 6 年度は、岩原廣彦氏（元 香川大学客員教授）を講師にお招きして令和 7 年 1 月 21 日（火）に総勢 28 名が参加し「災害時の心理を知るクロスロードカードを使った机上型訓練」を実施しました。

災害発生時に次々といろいろな場面が発生する中で瞬時に「Yes」か「No」かを判断することの難しさと、自分とは異なる意見・価値観の存在への気づきを得ることができました。（詳細はHP参照）



写真－5 机上訓練(グループ討議)の様子

(2) かがわ防災技術研究会の活動

平成 28 年に本研究会を立ち上げ、学校防災アドバイザー派遣事業を中心に、各種防災支援や勉強会等の活動を行っています。

学校防災アドバイザー派遣事業は、香川県教育委員会からの協力要請にもとづき、各学校に防災の専門家がアドバイザーとして出向き、児童・教職員に対して防災教育の実施や危機管理マニュアル、避難訓練等への助言を行うものです。

令和 6 年度は高松市立国分寺南部小学校を始めとした 23 校園に、延べ 50 名を派遣しました。



写真－6 国分寺南部小学校の防災授業の様子

(3) プラスワンの活動

「プラスワン」では、令和 17 年から始めた「出前授業」や例会などを通して技術研鑽・交流を行っています。

令和 6 年度の出前授業は、香川高専の 3 年生を対象に、当会から延べ 56 名が講師として参加し、グループ討議等を通して進路の助言等を行いました。

4. おわりに

当会は上記に述べたように幅広く交流と活動を行っています。今年度は会の活性化と若手の活躍を期待して、9 月 6 日（土）にプラスワンと合同開催で新しく勉強会・研究会を立ち上げる Start-up ワークショップを行う予定です。会員の皆様には多数の参加をお待ちしています。また、新規会員の勧誘や外部への情報発信等も積極的に行う予定ですので、ご支援・ご協力をお願いいたします。当会の HP <https://kagawa.ipej-shikoku.org/>

愛媛県技術士会だより

愛媛県技術士会

事務局長 小椋 匡

OGURA Tadashi



1. 愛媛県技術士会の紹介

愛媛県技術士会は、1988年に有志により創立され、2025年で創立37年を迎えました。

現在、正会員183名、準会員12名、合計195名（令和7年6月現在）により構成されており、会員相互の親睦・交流、技術士業務の普及・啓発、後進の育成などを通じて、地域産業と技術の発展に貢献する活動を展開しています。

また、公益社団法人日本技術士会四国本部が主催する年2回のCPDセミナーなどへの共催や、独自に多数の行事を開催。さらに毎年会報誌を発行しており、最新号は2024年発行のVol.32です。

2. 令和6年度総会・CPDセミナー等

6月1日に会員31名の参加を得て令和6年度の総会を開催しました。総会では、各議案の承認と新入会員の紹介を行いました。続いて、四国本部主催の公開講座・CPDセミナー・防災講演会が開催され、45名が参加しました。

CPDセミナーは、愛媛大学大学院 理工学研究科 中原真也教授より、「地域のカーボンニュートラルを推進する愛媛大学『環境・エネルギー工学センター』と水素の活用概要」と題してご講演いただきました。水素サプライチェーンモデルを含む2050年カーボンニュートラル実現に向けた取り組みが紹介されました。

公開講座は、「笑う門には福と元気がやってくる」と題し、笑いクラブ笑姫 主宰 白石敬子氏より、笑いヨガについてのご講演がありました。

防災セミナーは「愛媛大学防災情報研究センターの最近の活動と今後の展開」と題し、愛媛大学社会共創学部 バンダリ・ネトラ・プラカシュ教授より、地域防災支援の具体例についてご説明いただきました。新合格者の紹介の後は「技術士第二次試験合格者祝賀会・懇親会」を開催し、会員間の親睦と交流を図ることができました。

3. リケジョカフェ

9月28日に県内の女性技術者を対象に「リケジョカフェ」を開催しました。「技術士を目指す女性のために」と題した話題提供に続き、グループワークを実施。世代間の認識ギャップ、過度な「女性への配慮」、コミュニケーションの重要性について活発な意見交換が行われました。

4. 親睦ゴルフ

10月12日、2年ぶりに親睦ゴルフを開催しました。晴天のもと、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。



写真-1 親睦ゴルフでの記念撮影

5. 技術士試験対策セミナー

愛媛県技術士会では、SUKIYAKI塾四国との共催により、毎年3回（3月、4月、11月）、技術士第二次試験対策セミナーを開催しています。本会会員も講師として積極的に参加しています。



写真-2 セミナーの様子

6. 現地見学会

10月30日、「四国電力株式会社」のご協力のもと、リプレイスされた西条発電所新1号機（出力50万kW、高効率火力発電）の設備見学を実施しました。PR館での概要説明や、蒸気タービン・中央制御室の見学を通じて、大規模発電所の運用や電力の安定供給の重要性について学びました。



写真-3 発電所施設前での記念撮影

7. 令和6年度忘年会・CPDセミナー等

12月7日に第98回CPDセミナー・公開講座・防災セミナーを開催し、45名が参加しました。

CPDセミナーは、愛媛大学 森伸一郎 特定教授より「最近の地震活動から学ぶ教訓と次の大地震への備え」と題してご講演をいただきました。能登半島地震やトルコ・シリア地震の現地調査結果を踏まえ、防災意識の向上を図りました。

公開講座は「愛媛の近代化遺産を歩く」と題し、今治明德短期大学 大成経凡 講師より、地域に残る近代化遺産の魅力と保存の意義について紹介いただきました。

防災セミナーは、「過去の大規模災害に学ぶー愛媛の地震・津波・水害・土砂災害史ー」と題し、愛媛大学 大本敬久 特定准教授より、歴史的記録をもとにした災害の教訓と今後の備えについて講演いただきました。セミナー終了後、参加者30名による忘年会が開催され、今年度の活動を締めくくる場となりました。

8. お仕事フェスタ2025

3月8日・9日、「お仕事フェスタ2025」がアイテムえひめで開催され、県内のさまざまな企業や団体が参加しました。会場は多くの小・中・高校

生で賑わい、将来の職業に対する関心を高める良い機会となりました。

このイベントは、子どもたちにさまざまな職業を紹介し、将来の進路選択に役立ててもらうことを目的に実施され、約100の企業・団体がブースを出展しました。

愛媛県技術士会は、「技術士の知名度向上」および「子どもたちが将来技術士を目指すきっかけづくり」を目的に今年も参加しました。

2日間で合計100名（8日：54名、9日：46名）の方にブースを訪れていただき、技術士の仕事や社会における役割についてご紹介することができました。

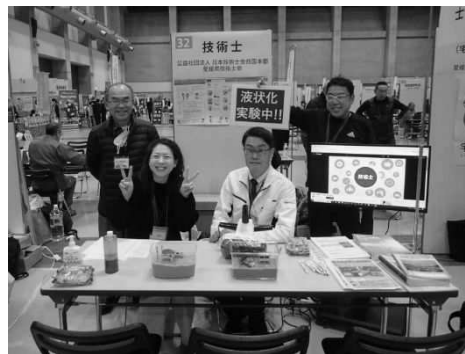
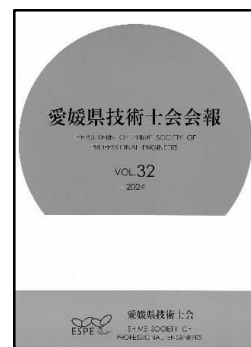


写真-4 技術士会ブースの様子

9. 会報誌発行

愛媛県技術士会では、毎年800部の会報誌を発行しています。この会報誌は会員だけでなく、県内の地方公共団体、大学、マスコミなどにも配布しており、当会の活動を広く紹介することで、知名度の向上に努めています。



最新号 vol. 32

10. おわりに

愛媛県技術士会では、ホームページを通じて活動報告などの情報発信を行っています。当会ホームページをご覧ください。<http://ehime-pe.jp/>
QRコードから、ご覧になれます。

今後も会員相互の親睦を深めながら、地域社会に貢献できるよう、積極的に活動してまいります。



リレーエッセイ ～プレーヤーとマネージャー～

香川県 環境／建設部門

末次 綾

SUETSUGU Aya

株式会社 四電技術コンサルタント



1. はじめに

分野を問わず、組織に属する者がある程度の年になった時、思い悩むことでは無いか。

プレーヤーとして生きていくか、マネージャーとして生きていくか。

私は数年前に管理職になり、マネジメントをする立場になった。昇進自体は、実績を認めてもらえた部分もあると思うので、素直にうれしかった。しかし、管理職になるということは、「管理が仕事」になるということであり、そもそも「環境に関する仕事に就きたい!」と今の会社に入ったことを思うと、本末転倒のような状況である。私は、どうしたら良いのだろうか?

せっかく頂いた機会なので、これまでの経験を思い出し、これからの自分の進むべき生き方を見つめなおしてみたいと思う。

2. ことの発端、川が汚かった

はるか昔、高校3年の卒業後の進路を決める頃、私は、「将来、何がしたいんだろう」と、とある橋の上から川を眺めて考えていた。当時の河川は高度経済成長による煽りを受けて水質汚濁が著しく、目の前にある川は、いわゆる「ドブ川」であった。投げ捨てられたごみが浮き、暗黒色、悪臭を放っていた。調べてみると、その橋の下地点におけるその年のBOD75%値が8.8mg/L、最大値が18.0mg/Lであった。

この川、汚いな…。

誰か、きれいにすればいいのに。

ん?

…おや?

私がすれば良いのか?

おお。そうだ、私がきれいにすれば良いんだ!

…非常に安直に、私の進路が決まった。

その勢いに任せ、環境分野のある大学、大学院に進んで環境について学び、都市人工池における微生物を用いた水質浄化について研究を行った。

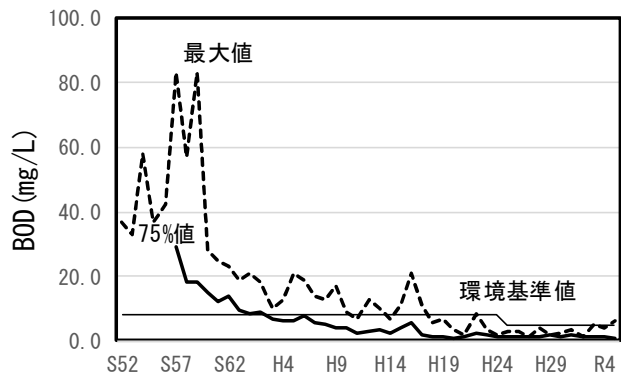


図-1 高校時代に眺めた川のBODの変化

(環境基準類型指定はH25まで河川D、以降河川C類型)

3. 氷河期、そしてまちづくり

大学院を卒業した後、環境への熱い思いを胸に環境関係の仕事に就き、…と言いたいところであるが、当時は就職氷河期の真っ只中、就職活動はかなり厳しかった。50枚の葉書を書き、返信があったのは数通。男女差別も当たり前で、最終面接まで行った後に「女性はすぐ辞めるから採用しない」と言われたこともあった。

やっと拾ってもらった会社は、建設コンサルタントではあったものの、環境分野の仕事を行っていなかった。その会社に3年間在職し、まちづくり計画や景観、公園設計等を担当した。

大学からすると専門外の業務であったが、尊敬すべき先輩方から、建設コンサルタントとは何か、基本的な姿勢、考え方、仕事の仕方を教えて頂いた。今考えると、たかが3年であったが、この時の経験が、私の社会人としての土台を作ると共に、技術の幅を広げたと思う。

4. 環境の仕事ができるんだ！

結婚を機に現在の会社に転職した。四国の地域コンサルとして環境部門に強い会社で、今でも、縁を結んでくださった方に感謝の念が堪えない。

主な業務は水質調査業務で、四国内の河川やダムを端から端まで走り回って調査をしてきた。環境中の水質は、化学、生物、物理的要因で多様な変化を示し、「なぜ、今この水質なのか？」を考えると、パズルのようで面白い。また、水質事故や富栄養化現象等の発生時は専門技術が必要とされ、少なくとも命の源である「水」を見守っているのだ、という自負を持って業務に向き合っている。



写真-1 人生で最も多く調査に入った鹿野川ダム

また、他方では前の会社でまちづくり計画に関する仕事をした経験から、環境計画や環境報告書、水質改善計画に関する業務にも携わり、そこから発展してかわまちづくり計画にも携わっている。

結局、高校3年で持った思いから水質を専門とし、最初の会社で経験したまちづくりから計画系の仕事をし、これまで歩いてきた道があって今の私がいるのだと改めて気づく。

5. 管理職になりたくない・・・、が

これまでを振り返ってみたが、やはり私は技術者、プレーヤーでいたかったと思う。が、しかし。管理職がしっかりしていないと部下に迷惑である。そこで、管理も業務も、両方頑張ろうとプレイングマネージャーを目指そうと思った。

これが、思ったより大変であった。社内外の人と相談、決定、調整。何本も電話が鳴り、メール

は1日50～100通のやり取り、並行して3つも4つも処理することが出てくる。

マネジメントに追われてアップアップし、プレーヤーに集中できずストレスが溜まる。これが、最近の私であった。

6. リーダーシップに光明、これから

そんな中、最近参加させて頂いたマネジメントセミナーで、今後の生き方に迷うわたしに、一筋の光が差した。教わったことは、

「リーダーはマネジメント(管理)だけでなく、

リーダーシップ(戦略、方向を示す)も発揮すべき」

私は、「マネジメント」ばかりに注視していたが管理職はリーダーシップを発揮する役割も担っているとの事。なるほど。私が直接出来なくても、グループの方向性を示して、グループとしてすればいいんだ。例えば水質調査業務で進みたい方向があれば、部下に理解・協力してもらうことで、自分が直接手を動かさなくても、進みたい方向に進めるんだと思ったのである。

若干、自分に言い聞かせている部分もあるが、「管理職になったから出来ないことが増えた」のではなく、管理職になったから「グループ全体として2倍も3倍にも出来ることがある」と受け取りたいと思った。これからは管理職をポジティブに捉えて取り組んでいきたいと思う。

とはいえ、手を動かすのが大好きなので、隙あればプレーヤーとしてもやるつもりである。

7. 終わりに

リレーエッセイのバトンを渡してくれた、同じ名前の復建調査設計株式会社の岩井綾さん、自分を見つめなおす機会をくれてありがとう。このバトンは、男女共同参画推進小委員会で知り合った尊敬する皆さまの中から、同じ副委員長、いつも仕事に一生懸命で、お酒友達、大好きな株式会社フジタ建設コンサルタントの大寺礼子さんにお渡しします。突然のお願いを聞いて下さってありがとう。お二人に心より感謝申し上げます。

また、日々、私を支えてくれる周りの皆様全員に、心より感謝申し上げます。

協賛団体

(企業名アイウエオ順)

株式会社荒谷建設コンサルタント 四国支社 〒790-0045 愛媛県松山市余戸中2丁目1番2号	株式会社四国総合研究所 〒761-0192 香川県高松市屋島西町2109番地8
株式会社石垣 〒762-8511 香川県坂出市江尻町483番16号	四国電力株式会社 〒760-8573 香川県高松市丸の内2番5号
株式会社エイト日本技術開発 四国支社 〒790-0054 愛媛県松山市空港通2丁目9番29号	田村ボーリング株式会社 〒761-8074 香川県高松市太田上町299-7
株式会社エコー建設コンサルタント 〒770-0865 徳島県徳島市南末広町4番53号	株式会社第一コンサルタンツ 〒781-5105 高知県高知市介良甲828番地1
エスシー企画株式会社 〒770-0026 徳島県徳島市佐古六番町10-8	株式会社地研 〒780-0974 高知県高知市円行寺25番地
株式会社エフ設計コンサルタント 〒770-8074 徳島県徳島市八万町下福万180-15	都市開発コンサルタント株式会社 〒780-8040 高知県高知市神田1427番地
株式会社カイセイ 〒780-8086 高知県高知市針木東町26番51号	南海測量設計株式会社 〒790-0964 愛媛県松山市中村3丁目1番7号
公益財団法人 香川県建設技術センター 〒761-8076 香川県高松市多肥上町1251番1号	ニタコンサルタント株式会社 〒771-0122 徳島県徳島市川内町鈴江西38番2号
株式会社和コンサルタント 〒770-0002 徳島県徳島市春日1丁目6番9号	日本工営株式会社 四国支店 〒760-0033 香川県高松市丸の内4番4号
共立工営株式会社 〒790-0054 愛媛県松山市空港通2-9-8	株式会社ファルコン 〒770-0053 徳島県徳島市南島田町二丁目84番地
構営技術コンサルタント株式会社 〒780-0945 高知県高知市本宮町105番地23	株式会社フジタ建設コンサルタント 〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字原87-1番地
興国株式会社 〒770-0903 徳島県徳島市西大工町4丁目15番地	復建調査設計株式会社 四国支社 〒760-0020 香川県高松市錦町1丁目3番9号
株式会社高知コンサルタンツ 〒781-8104 高知県高知市高須3丁目14番30-701号	株式会社芙蓉コンサルタント 〒790-0063 愛媛県松山市辻町2番38号
株式会社五星 〒767-0011 香川県三豊市高瀬町下勝間670番1号	株式会社松本コンサルタント 〒770-0811 徳島県徳島市東吉野町2丁目24番地6
株式会社シアテック 〒792-0003 愛媛県新居浜市新田町3丁目1番39号	四電エンジニアリング株式会社 〒761-8541 香川県高松市上之町3丁目1番4号
JFE商事テールワン株式会社 西部事業部四国支店 〒760-0019 香川県高松市サンポート2丁目1番 高松シンボルタワー23階	株式会社四電技術コンサルタント 〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼1007番3号
一般社団法人 四国クリエイティブ協会 〒760-0066 香川県高松市福岡町3丁目11番22号	株式会社ロイヤルコンサルタント 〒781-8122 高知県高知市高須新町三丁目1番5号
四国建設コンサルタント株式会社 〒771-1156 徳島県徳島市応神町応神産業団地3-1	

令和7年7月現在

編集後記

今回は、マラソンの話であります。私自身、過去にマラソンをやっていたことがあり、フルマラソンにもこれまで10数回出場しました。結果は後述するように思わしいものではなく、現在は、過去に腰を痛めていることに加え、前職の産業医に膝の大怪我の恐れを指摘され、残念ながら断念している状況です。

最初は、軽い気持ちで、ビールを飲むのに何もしないよりましだとか、特に道具はいらないなど色々御託を並べ、始めたのですが、大会に出るにつれ、欲が出てくるものであります。前半は快調なペースでとばしていたのですが、どうしても30kmの壁にぶつかり電池切れで、最後は、いつもお粗末な結果に終わってしまうのであります。毎度、この繰り返しで、単なる旅行に終わり、情けない限りであります。

唯一これらのマラソンを通して得たものの言え、諦めの悪さと達成感です。毎度、このマラソンを最後に止めようと思うのですが、最終的には、あと1回ぐらいならと思うのです。一方、ともあれ諦めず完走を成し遂げた結果、何事にも代え難い達成感・充実感が得られました。

皆様には、素晴らしい達成感を得て、忸怩たる思いはしてほしくありませんので、壁を乗り越え、すんなり目標を達成されることを望むところであります。

(四国本部広報委員会 大原)

四国本部会報投稿規程

公益社団法人 日本技術士会四国本部 広報委員会

内容	技術論文・技術解説・随筆・意見・近況報告等なんでも可。
構成	標題のあとに執筆者の県名・部門名・氏名・所属を書き、顔写真を貼り、本文に入る。 支部の役員という立場（各委員会・部会長など）で書かれた場合は、県・部門のかわりに役職を書く。文末の「以上」は省略して下さい。
ワープロ	Word 2003－2016 と完全に互換性のある形式とします。
用紙・段組	書式データ（テンプレート）に従って下さい。原稿にはページを打たないで下さい。
文体・強調	原則として、「である調」とします。句読点は「。」「、」を、「。」「、」は使用しないで下さい。強調したい部分は太字を使用しても可。アンダーライン、マーカ―は用いないで下さい。
ページ数	偶数ページを基本とします。ただし、広報委員会からページ数の削減を求めることもあります。
原稿の色	原稿はモノクロ（写真・図表を含む）で提出するようお願いします。
図表	図表の中の文字の大きさを、原則として 9～10 ポイント程度とします。 図、表のタイトルは、図－n、表－n、写真－n と表記し、MSP ゴシック 8～9 ポイント（太字使用も可）とします。表中のマーカ―や文字囲み等は可とします。
写真	パソコンソフトで適宜貼り付けてください。カラー写真は白黒になりますので、白黒で判別がつくように確認してください。
著作権	文中に引用するものなどが著作権の許諾が必要な場合、執筆者の責任で著作権者の承諾を得て下さい。
原稿の送付	メールで、各県担当の広報委員経由とします。容量が大きくメールで送信できない場合は、CD などに記録して送付して下さい。原則として、プリントアウトしたものは受け付けません。
校正・修正	記事内容は投稿者の責任としますが、広報委員会で次の修正を行います。 ①原稿の字句に関する間違いについては、文意を変えない範囲で修正し掲載します。 ②投稿規程に沿っていないと判断した場合は、投稿者の了解を得ずに編集者が可能な限り修正して掲載します。 ③投稿内容が、ある特定の個人や団体の名誉を傷つける内容や、差別用語等の不適切な表現があると思われるものは、広報委員会において協議の上、修正箇所を表示して投稿者に返送し、適切な修正等が行われていることを確認の後掲載します。 またこの場合、翌号以降の掲載になることがあります。

☆書式データ（テンプレート）がありますので、各県担当まで連絡してください。

会報は、公益社団法人 日本技術士会四国本部の皆様や会友からの投稿で構成されています。

皆様から頂いた原稿は、広報委員に配布し検討に付されます。その検討結果にもとづいて修正・訂正を加えた後、印刷・製本に回します。原稿をいただいてから会報となって皆様の手許に届くまでの期間をなるべく短くするよう関係者一同努力しています。ひきつづき皆様からの積極的な投稿とご支援を賜りますようお願い申し上げます。